

# 事務事業及び予算の執行実績

(令和4年度分「一部、令和5年度分を含む」)

静岡県立掛川特別支援学校

# 目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	30
学校施設の概要	31
在籍生徒調	34
入学志願者及び入学者数調	36
卒業生の動向調	37
生徒の状況	38
特別支援学校における生産物売払調	40
預金調	43
郵券等受払調	44
材料品受払調	45
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	46
委託料に関する調	48
負担金支出調	60
建築工事調	62
公有財産調	64
借地借家等調	65
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	66
行政財産貸付・使用許可調	67
主要備品調	68
職員調	69
職員の年齢調	76
健康管理	77

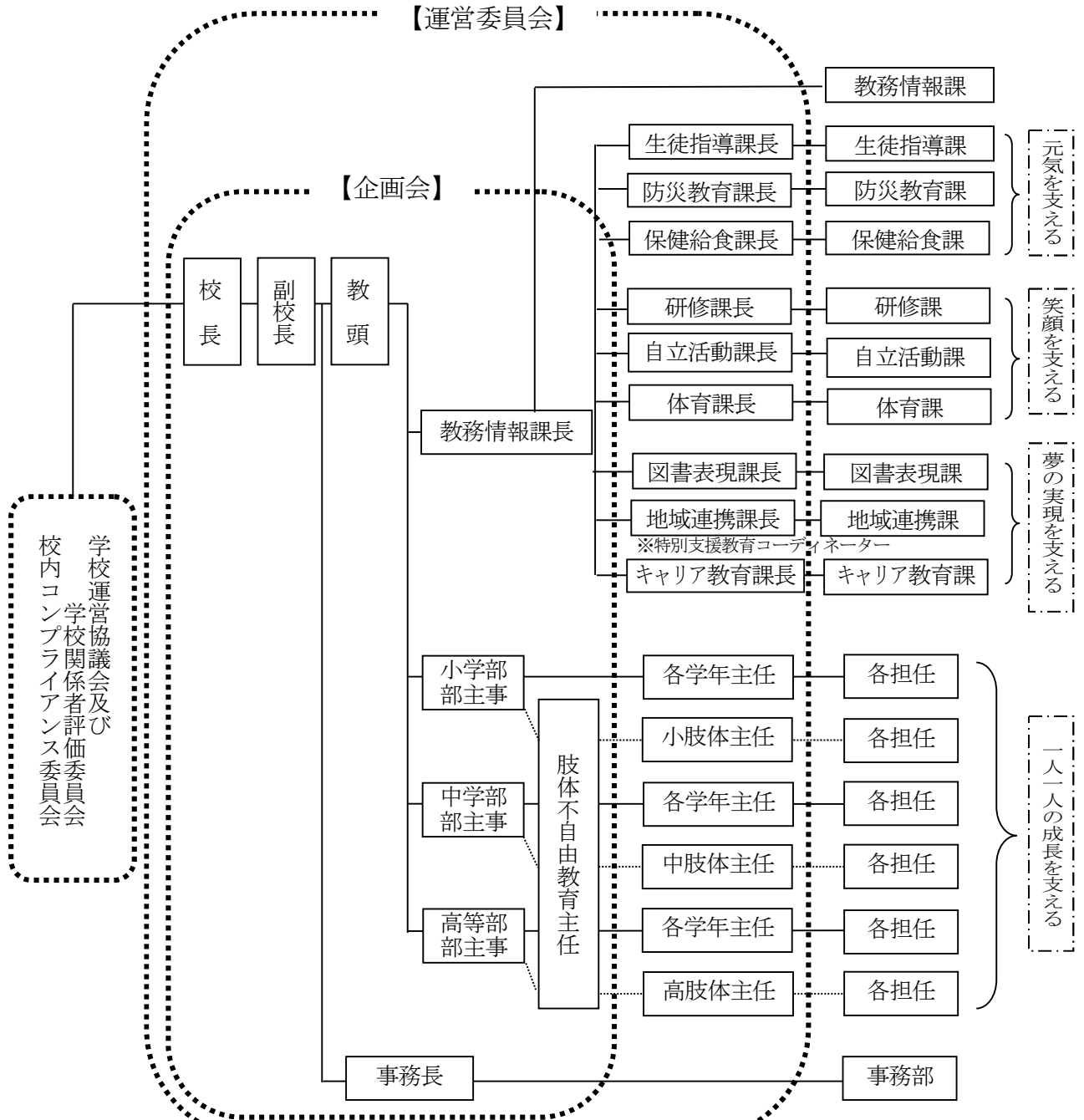
## 事務事業の概要(本校)

### 1 概況

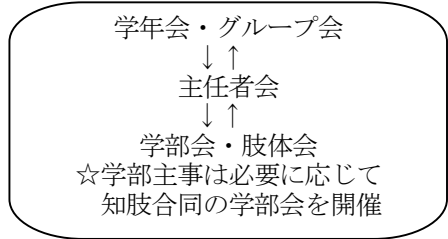
#### (1) 学校の沿革

平成	24. 7. 23	定例会において掛川地区に新設する県立特別支援学校設置場所を掛川市立総合病院跡地の一部にすることを決定
	26. 4. 1	設置準備委員会を静岡県立袋井特別支援学校内に設置 設置準備委員 9名発令
	26. 5. 29	校舎新築工事着工
	27. 2. 28	校舎建築工事完了
	27. 4. 1	静岡県立掛川特別支援学校開校
	27. 4. 10	第1回入学式挙行
	27. 4. 14	開校記念式典挙行
令和	2. 4. 1	学校運営協議会設置

(2) 組織図



各種委員会 (校内委員のみ)



- |                                  |                 |             |         |
|----------------------------------|-----------------|-------------|---------|
| 学校自己評価委員会                        | 危機管理委員会         | 校内支援検討委員会   | 学校保健委員会 |
| 教育課程検討委員会                        | 交通安全委員会         | スクールバス安全委員会 | 生徒指導委員会 |
| 人権教育及びいじめ対策委員会                   | 道徳教育推進委員会       | 職員安全衛生委員会   |         |
| 入学者選考委員会                         | 研修推進委員会         | 校内就学支援委員会   | 業者選定委員会 |
| 校内医療的ケア検討委員会                     | 交流教育推進委員会       | アレルギー等対応委員会 |         |
| 学校給食委員会 (運営 衛生管理 献立作成 物資選定 食育推進) | 施設開放委員会         |             |         |
| 夢の実現委員会                          | カリキュラムマネジメント委員会 |             |         |

## 2 目指す学校像

### (1) 令和4年度の教育目標 「元気 笑顔 夢の実現」

元気＝命の大切さを基本とし、楽しい学校生活の中で、心身ともに健康な生活を送ること  
 笑顔＝日々の学校生活が学習面・生活面で満たされ、人・もの・ことに主体的に関わること  
 夢の実現＝日々の教育を明日に繋げ、卒業後に自立した豊かな生活を送れるようにすること

#### 目指す児童生徒の姿

自分の良さ（強み）を生かし、人や社会とつながりながらその能力や可能性を最大限に発揮して、主体的に学び生活する姿

### (2) 令和4年度の目標具現化の柱

- ア 安全が確保され安心して学べる学校づくり
- イ 一人一人の自立と社会参加を目指した指導と授業づくり
- ウ 家庭・地域・関係諸機関に信頼され、共に連携して歩む体制づくり
- エ 意識改革、業務改善、相互協力による働き甲斐のある職場づくり

### (3) 令和5年度の教育目標 「元気 笑顔 夢の実現」

元気＝命の大切さを基本とし、楽しい学校生活の中で、心身ともに健康な生活を送ること  
 笑顔＝日々の学校生活が学習面・生活面で満たされ、人・もの・ことに主体的に関わること  
 夢の実現＝日々の教育を明日に繋げ、卒業後に自立した豊かな生活を送れるようにすること

#### 目指す児童生徒の姿

自分の良さを生かし、人や社会とつながりながらその能力や可能性を最大限に発揮して、主体的に学び生活する姿

### (4) 令和5年度の目標具現化の柱

- ア 【安全・安心】 人権・個性を尊重し、安全・安心な教育環境、学校体制と教育の充実
- イ 【授業】 一人一人の教育的ニーズに応じ、確かな成長・発達を支える授業の充実
- ウ 【連携】 地域とつながり、地域に学び、地域と連携・協働した学校づくりとセンター的機能の充実

## 3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

### (1) 令和4年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	<b>(7) 防災・防犯・健康・安全意識の更なる向上を図る。(自分の命を自分で守る教育)</b>	○重大事故ゼロ  ・有事の際の動きが分かかったと答える教職員 100% ・マニュアルを理解し活用したという教職員 100% ・地域との合同訓練や研修を通じた福祉避難所運営や避難体制の確立 100% ・スクールバス避難場所と連携した登下校の避難体制を確立 100% ・不審者侵入の際の対応について理解し実行できると答える教職員 100%	○児童生徒の重大事故 0件。  ・87% 不審者対応の実地訓練を実施。  ・88% 訓練の際、毎回マニュアルを確認した。 ・放課後等デイサービス事業所を加えて情報伝達・安否確認の訓練を行った。 ・下校時避難訓練ではスクールバス連絡訓練を再開した。  ・88% 実地訓練が有効だった。	A	・小さな異変を見逃すことなく、未然防止策を徹底できた。 ・マニュアルの周知が不十分な場面があった。  ・訓練毎にマニュアルの内容を確認する習慣がついた。 ・災害時情報伝達の具体的な方法について確認できた。  ・情報の連絡や周知に時間がかかった。今後も訓練を継続していく。  ・マニュアルを理解し実行できた。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア		<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭とタイアップした授業の実施 各学年 100%</li> <li>・児童生徒自身が健康について考える授業の実施 各学年 100%</li> <li>・感染予防対策の徹底 100%</li> <li>・安全点検の実施と危険個所の整備 100%</li> <li>・目的を明確にした清掃活動（スクールクリーン） 100%</li> <li>・ヒヤリハット・事故報告事例の分析と情報共有 100%</li> <li>・実施後に実際の場面で生かされたという教職員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100% 各学年 1 回以上実施できた。</li> <li>・100% 養護教諭と連携して授業を 1 回以上実施できた。</li> <li>・97% ガイドラインを見直し、実情に応じた対応ができた。</li> <li>・100% 危険個所の整備修繕に迅速に対応した。</li> <li>・92% 清掃方法や手順を紹介した。</li> <li>・96% 朝の打合せ、掲示板で情報共有をし、重大事故を防いだ。</li> <li>・100% 児童生徒の発作時に迅速に対応できた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態に合った健康と食に関する指導が実践できた。年度当初に計画を立て実践する。</li> <li>・感染状況や教育委員会からの通知に合わせた対策を継続していく。</li> <li>・重点を絞った校内安全点検を継続。</li> <li>・学部毎に目的を周知し、環境整備の意識向上につなげる。</li> <li>・迅速な分析と情報共有により再発防止の意識が高まった。</li> <li>・訓練を実施する集団や方法を見直していく。</li> </ul>
	(イ)教師、生徒の人権意識を向上し、他者を大切にすることを育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒、教職員への人権侵害 0</li> <li>・常に人権を意識して児童生徒、教職員と関わったと答える教職員 100%</li> <li>・道徳公開授業の実施、各学年 1 回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権侵害 0 件。</li> <li>・100% 人権目標の振り返りの結果を掲示板で周知。</li> <li>・100% 掲示板等で授業内容の周知、共有を実施。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修、人権振り返りシートの活用を通して、人権について高い意識を継続していく。</li> <li>・授業に活用できる情報提供や書籍の購入を継続していく。</li> </ul>
	<b>(7)保護者と教員が連携・協力して児童生徒の成長を支え、夢の実現を目指す。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の良さ（強み）や必要な力を学校と共有できたと答える保護者 100%</li> <li>・すまいるファイルを活用できたという教員・保護者 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・95% 面談や懇談会で共有した。</li> <li>・教員 85%、保護者 73% 保護者が活用する場面が限定されていた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良さや必要な力をさらに伸ばすために具体的な取組を提案する。</li> <li>・すまいるファイルの意義や校内外での活用を促進する。</li> </ul>
イ	(イ)主体的・対話的で深い学びのある授業実践を通して、育成を目指す資質・能力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的対話的で深い学びの視点で授業改善が進んだと答える教員 100%</li> <li>・自らの課題を解決した授業実践により、成就感や満足感が得られたという教員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・95% 主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善する意識づけができた。</li> <li>・児童生徒の発達段階を捉え、授業実践につなげた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年やグループで主体的・対話的で深い学びの姿を十分に共通理解するようにしていく。</li> <li>・把握した実態をもとにした授業づくりを更に深めていく。</li> </ul>

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領の各教科、領域の目標や学習内容を確認し、指導案の作成や授業に生かしたと答える教員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>88% 学習指導要領を基にして活動内容を考えるようになった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導要領の一層の活用を促すよう、情報の発信と研修を継続していく。</li> </ul>
イ	(ウ) 児童生徒が自分の良さを実感できる学習活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>分野別研修の実施 (Word、Excel、Zoom 等 年6回)</li> <li>ICT機器を活用した授業の実践紹介 各学年年2回以上</li> <li>学部間や障害間 (知的と肢体教育) の連携・交流による活動 各学年年1回以上</li> <li>自立活動区分表を基に児童生徒の課題を見極め、個別の指導計画の目標を設定できたと答える教員 100%</li> <li>紹介や展示会を見て、教材教具の良さを知り、自身の指導に役立てた教職員 90%</li> <li>進路指導全体計画を活用した指導や授業づくりの実践 各学年 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5回実施。授業にかす教員が増えた。</li> <li>どの学年もICT機器を活用した授業を実施。</li> <li>月1回以上の実施は難しかったが、児童生徒それぞれ互いの良さを実感できた。</li> <li>84% 区分表を基に、指導・支援を検討するようになった。</li> <li>88% 夏季休業中に展示会を開催し使用方法を紹介した。</li> <li>78% 進路課員の所属学年で全体計画を活用した授業を実施。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会や学習会を実施し、ICT機器の活用方法についてサポートを継続していく。</li> <li>教育課程の違いがあるが、行事など合同の活動を継続していく。</li> <li>自立活動の6区分を基にした事例検討を行い、実際の指導に生かすために研修を継続していく。</li> <li>分かりやすい活用方法の紹介や点検修理を継続していく。</li> <li>年度の初めに学習会を実施し、職員の理解を深めていく。</li> </ul>
ウ	(ア) 居住地域とのつながりを深める。 (交流籍を生かした交流の充実、地域活動への参加)	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流籍校交流の個別目標を達成できたと答える教員 100%、保護者 100%</li> <li>すまいるファイルを活用した事前打合せの実施 100%</li> <li>地域の活動に参加した児童生徒 70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員 97%、保護者 100% 面談で目標や活動内容を共通理解できた。</li> <li>100% 全職員が打ち合わせでファイルを開示した。</li> <li>50% 地域防災訓練に参加。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前打合せや面談で個別目標を達成するための活動内容や手立てを明確にしていく。</li> <li>個に応じた具体的な活用を提案することは難しかったため、ファイルの具体的な活用事例を提示する。</li> <li>新型コロナの影響で参加を見合わせている。</li> </ul>
	(イ) コミュニティスクールの更なる推進により、学校周辺地域・関係諸機関とのつながりを深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方とつながることを意識して活動したと答える教職員 100%</li> <li>一日平均アクセス数 300件以上</li> <li>保護者や外部への発信が充実したという学校関係者評価 90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>77% 新型コロナウイルス感染症の影響により外部との交流に制限がかかった。</li> <li>約 200 アクセス 情報課員を中心に、学習の様子を発信した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策を徹底しながら実施できる計画を立案する。</li> <li>閲覧者のターゲットを明確にし、役立つコンテンツを掲載する。</li> </ul>

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	(ア)業務改善により教材研究や自己研修の時間を増やし、やりがいを感じられる職場にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の重要度を考慮し、自分のタイムマネジメントが向上したと回答する教職員 100%</li> <li>・教材研究や自己研修の時間を確保できたと回答した教職員 100%</li> <li>・仕事にやりがいを感じたと答える教職員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・78% 最終施錠時刻を設定し、タイムマネジメント意識が向上してきた。</li> <li>・84% 計画的な空き時間の確保は難しかった。</li> <li>・95% 児童生徒の変容や成長がやりがいにつながっている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議を精選し終了時刻を明確にする。</li> <li>・適正人数による授業を実施し、授業準備、事務処理時間を確保する。</li> </ul>
	(イ)お互いに仕事を助け合い、協力し合って、働きやすい職場にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働きやすい職場であると答える教職員 90%以上</li> <li>・互いに協力し合って仕事ができたと答える教職員 100%</li> <li>・不祥事ゼロ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・82% 適切な勤怠管理。</li> <li>・93% 業務内容を明確化した。</li> <li>・交通事故2件(勤務時間外)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善により、休憩時間を確実に確保する。</li> <li>・適切な業務分担を行い、サポート体制を構築する。</li> <li>・交通安全講習など研修を継続する。</li> </ul>
	(ウ)教員個々のキャリアに応じた専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らのキャリアステージを意識して専門性の向上に努めたと回答する教職員 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・88% すべての教員にキャリアステージを提示。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の数が多く、専門性を深めるまでは難しかった。適切な時期に適切な回数を設定する。</li> </ul>

(2) 令和5年度の取組目標・達成目標・成果目標

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	担当部署
ア	(ア)(安全・安心)児童生徒が安全に安心して生活することができ、活動しやすい教育環境を整備する。	定期的な校内安全点検と災害時における危険個所の迅速な点検と整備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理責任者による安全点検の実施と危険個所の整備 100%</li> </ul>	防災教育課 各学部・事務部
		教職員と児童生徒が協働し、感染予防対策と美化清掃活動を日常的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「整理整頓・清掃が常に行き届いている学校」と答える教職員 100%</li> </ul>	生徒指導課 保健給食課 各学部・事務部
	保健、医療的ケア、給食、体育等のヒヤリハットを自分事に捉えるよう呼びかけ、適切な対応を促し、迅速な改善策を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健、医療的ケア、給食、体育等の重大事故発生0件。</li> <li>・「ヒヤリハット等の情報を環境整備や再発防止に活用した」と答える教職員 100%</li> </ul>	保健給食課 体育課 教務情報課 各学部	
(イ)(危機管理体制の整備と改善)事故や災害等に対する適切・迅速な対応を考え危機管理意識の向上を図る。(自分の命は自分で守る教育)	地域の強みを活かし、掛川市、南郷地区、希望の丘と協働した防災体制を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との合同訓練を通して福祉避難所運営や避難体制の確立 100%</li> </ul>	防災教育課 事務部	
	危機管理マニュアルを見直し、(登下校時を含む、地震災害、荒天、行方不明等)避難訓練を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルを教職員が理解し、「児童生徒が有事の際の動きが分かり行動できた」と答える教職員 100%</li> </ul>	防災教育課 生徒指導課	



	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア		情報管理、交通安全、会計処理等に関する研修を実施し、児童生徒、保護者、地域の信頼に応える。	・不祥事根絶、情報機器管理・紛失0件、個人情報紛失0件、交通加害事故0件、不適正会計処理0件	教務情報課 企画会 事務部
	(ウ) (人権教育、道徳教育の充実) 教職員、児童生徒の人権意識を向上し、他者も自分も大切にす る心を育む。	人権教育に関する全体研修会1回、学部研修1回を実施する。 月ごとの人権目標や振り返りシートを活用し、人権感覚の向上を図る。	・「人権に配慮した丁寧な態度や言葉遣いができた」と答える教職員の評価100%	生徒指導課 各学部
		いじめ等に関する児童生徒・保護者アンケートを実施する。	・「アンケート後、丁寧な対応ができた」と答える教職員100%	生徒指導課 いじめ対策委員会
		発達段階に応じた人権教育、道徳教育（道徳をテーマにした公開授業）1回以上を行う。	・「児童生徒が、あいさつやありがとうを自分から言えた」と答える教職員100%	生徒指導課 各学部
(エ) (業務改善と明るい職場づくり) 心にゆとりがあり、教育公務員としての自覚と仲間を大切にす る姿勢をもった教職員	教職員一人一人が働き方改革の意識を持ち、業務や会議の能率化と精選を進める。 お互いを思いやれる働きやすい職場づくりを推進する。 夢の実現委員会開催3回	・「働きがいとワークライフバランスの視点で業務改善できた」と答える教職員90% ・「自分の役割を自覚し、仲間と協働することができた」と答える教職員100%	夢の実現委員会 各学部	
イ	(ア) 保護者と教職員が連携・協力して児童生徒の成長を支え、夢の実現を目指す。	個別の教育支援計画、個別の指導計画等を保護者や関係機関と面談等で共有し、有効に活用する。	・「すまいるファイルを保護者や関係機関と共有し、面談や進路に活かした」と答える教職員100%	教務情報課 地域連携課 キャリア教育課
		自立活動の6区分等から実態把握し、個別の教育支援計画の作成や根拠ある目標設定を個別の指導計画に反映させる。	・「日々の児童生徒の評価を記録し、個別の指導計画に反映できた」と答える教職員100%	自立活動課 教務情報課 研修課
	(イ) 12年間を見通したつながりある年間指導計画の作成と授業づくりを実施する。	日常の授業や校内研修等を利用し、授業改善を図る。公開授業研究会を開催し実践を発表する。	・「助言者や授業アドバイザー等からの助言を受け授業改善できた」と答える教職員100%	研修課 各学部
		学習指導要領の内容を踏まえた授業実践や授業改善を行う。 ICT機器活用に関わる教職員研修を充実させ、実践を行う。	・「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善できた」と答える教職員100% ・「授業でICT機器を活用した」と答える教職員100%	研修課 各学部 教務情報課
		カリキュラム・マネジメント委員会（3回）や学年主任者会等、学習指導要領を基にして教育課程について見直し、12年間のつながりを整理する。	・「12年間の系統性や学習指導要領等の内容を見直した年間指導計画が作成できた」と答える教職員100%	カリキュラムマネジメント委員会 体育課 図書表現課 各学部

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
イ		「掛特版キャリアプランニング・マトリックス」や「保健教育に関する12年間の押さえ」の活用による児童生徒のキャリア発達に応じた指導実践を実施する。	・『掛特版キャリアプランニング・マトリックス』や『保健教育に関する12年間の押さえ』を活用し、授業実践した」という学部100%	キャリア教育課 保健給食課 各学部
		表現力や想像力を高めるために図書室や美術室・音楽室の環境を整える。	・「児童生徒が読書に親しんだり芸術を楽しんだりすることができた」と答える教職員100%	図書表現課 各学部
ウ	<b>(7) (センター的機能) 社会に開かれた教育課程の実現を目指した地域・学校・家庭の協働強化を図る。</b>  <b>(イ) (ふれあい活動の実践) 共生共育の実現に向けたコミュニティスクールの実施</b>	保護者や関係機関からの相談や要望に対し、それぞれの役割を明確にして、連携する。	・ニーズに応じたケース会議や学習会を設定したり、情報共有したりして、「必要に応じて保護者や関係機関と連携して取り組んだ」と答える教職員90%	地域連携課 キャリア教育課 各学部
		チーム学校の機能を活用し、在籍児童生徒の支援体制を充実させる。	・校内の専門家（看護師、S C）や校外の専門家（PT、OT、学校医、医ケア指導医相、談員等）の活用が「有効であった」と答える教職員の評価90%	地域連携課 キャリア教育課 保健給食課 自立活動課
		日々の学校公開やHP等を利用し、児童生徒の様子を発信する。	・「学校公開やHP等で学校の様子が理解できた」と答える保護者100%	教務情報課
		地域資源（人・もの・こと）を活用する「ふれあい活動」を年間計画に位置づけて実践し、成果と課題を明確にする。 地域の施設での作品展や作業製品展示・販売会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあい活動を実施し、地域資源（人・もの・こと）を利用できた」と答える教職員100%</li> <li>・地域の方々に向けた作品展や日頃の学習活動を公開して、「児童生徒の理解啓発につながった」と答える教職員100%</li> </ul>	地域連携課 各学部 カリキュラムマネジメント委員会 図書表現課 各学部
		学校間交流、交流籍交流の相手校と連携を図り、相互に有効な交流及び共同学習を実施する。	・実施後アンケートで「有効であった」と答える本校、相手校の評価100%	地域連携課 各学部

#### 4 監査対象期間における特色ある取組

（令和4年度）

「しない、させない、見逃さない、みんなで不祥事根絶。チーム掛特！」を合言葉にし、教職員一人一人の人権意識、規範意識の向上に努めた。自分自身で人権目標を定めて職員玄関に掲示したり、月ごとの人権目標を共有したりして日々の取り組みを行った。また、人権学習会、オンラインでの道徳教育研修も行い、教員個々の専門性向上の一助となった。

地域との協働・連携では、今年度「ふれかつ（触れ合い活動）」という名称を立ち上げ、高等部園芸班と地域ボランティアとの花植え活動や地域ボランティアと児童とが共に散策する一日ウォーク等を実施することができた。

新型コロナウイルスの感染状況に応じ、計画どおりにできなかつたり制約が生じたりしたこともあったが、そのときにできることを工夫しながらやろうという意識で取り組めた。また、教職員の感染対策への意識や協力体制の向上が見られた。

年 度	取組概要	成果及び課題
令和4年度	ア 防災・防犯・健康・安全意識の更なる向上を図る。 (自分の命を自分で守る教育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下校時避難訓練では、スクールバス連絡訓練や放課後等デイサービス事業所と連携して情報伝達・安否確認の訓練を行い、下校時の避難体制の確立につながった。また、不審者対応訓練も実施し、基本的な対応の確認をすることができた。今後は、より実際の場面を想定した訓練を実施し、その反省から危機管理マニュアルの見直しを行っていくことが課題である。</li> <li>・養護教諭や栄養教諭とタイアップした健康と食に関する授業実践を行い、校内掲示板を用いて全職員で学びを共有しながら、実践力を高めることができた。感染症予防については、ガイドラインの見直しを行ったことで、より教職員の理解が深まり、日々の確実な実践へとつながった。今後も市町の状況、県教育委員会からの通知を基に、確実な実施を行っていく。</li> <li>・安全については、毎月の安全点検の確実な実施と危険箇所の整備、スクールクリーン活動の充実による環境整備意識の向上、ヒヤリハット事案の共有による再発防止の取り組みを行った。様々な物品や教材の収納場所が少ないという状況が見られ、今後の課題である。</li> </ul>
	ア 教師、生徒の人権意識を向上し、他者を大切にすることを育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権を意識した行動宣言について、全教職員が自分の言葉で表現したものを校内に掲示し、来校者を含め、誰でも見ることができるようにし、日々の意識向上への一助とした。</li> <li>・月ごとの人権目標を設定し、「人権振り返りシート」を活用する取組を通して、教員の人権意識の向上に努めた。</li> <li>・道徳教育全体計画の活用について周知した。道徳の授業記録を残すことに加え、各学年で道徳の授業公開を年1回実施する取組を行なった。今後、授業に活用できる情報の提供や関係書籍の購入等を計画的に行っていく。</li> <li>・7月に、全職員を対象に人権伝達研修と外部講師による道徳教育研修を実施した。</li> </ul>
	イ 保護者と教職員が連携・協力して児童生徒の成長を支え、夢の実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種便り（学校便り、学部便り）や学校ホームページ、COCOO連絡等を通して、学校の教育方針や取組、児童生徒の様子などを保護者に発信した。</li> <li>・個別面談時にはすまいるファイルを活用し、保護者と学校が連携して個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・共有した。その際、個々の年間指導計画を示して学習の様子や今後の学習のねらい等を伝えることで、より具体的に保護者が学習課題をイメージし、児童生徒の成長を支えることへとつながった。</li> </ul>
	ウ コミュニティスクールの更なる推進により、学校周辺地域・関係諸機関とのつながりを深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の役割やコミュニティスクールの目指すところを具体的かつ明確にし、職員会議を中心とした諸会議で常に話題にするようにした。</li> <li>・高等部生徒会発信で、全児童生徒に地域の「人・もの・こと」と関わる活動の愛称を募集し、「ふれかつ（触れ合い活動が由来）」と決定した。今後は、「ふれかつ」のデザインやシンボルマーク（またはキャラクター）を募集していく。</li> <li>・地域の人と（人から）学ぶ、地域で学ぶ・活動する、地域のもので作る等々、地域の「人・もの・こと」と関わる学習を各学部で整理・実践している。</li> </ul>

年 度	取組概要	成果及び課題
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の流行により、地域の方々との交流に制限が生じた。今後は、感染症対策をしつつ実施可能な「ふれかつ」の計画・実施を行っていくことが課題である。</li> </ul>
	エ お互いに仕事を助け合い、協力し合って、働きやすい職場にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が自分の役割を自覚し、それに基づいて対象となる者（職員全体、学部、学年、分掌等）への働き掛けや発信を自ら行うことが少しずつできるようになってきた。この取組により、発信された情報を自分事として捉え、互いに協力するなどの雰囲気が根付いてきた。</li> <li>・その日の戸締り当番でなくても、職員が残業を終えて退勤する際に、自分が所属する学部等の戸締まりや消灯を確認してから校舎を出るといった行動が習慣となった職員が年度当初と比較して増えた。</li> </ul>

(令和5年度)

年 度	取組概要	成果及び課題
令和5年度	<p>ア（危機管理体制の整備と改善）</p> <p>事故や災害等に対する適切・迅速な対応を考え危機管理意識の向上を図る。（自分の命は自分で守る教育）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に掛川市と合同で福祉避難所開設・運営訓練を実施した。実際に避難者の受付、居住スペース作り、ポータブルトイレの実演、浄水器や発電機の稼働を行い、基本的な行い方や扱い方について理解することができた。特に医療的ケア児の対応について課題が多く見られた。今後は課題を整理し、対応策を検討して市と協議を行ったり危機管理マニュアルの改訂をしたりして、生かしていく。</li> <li>・地震、火災、土砂災害における避難訓練を実施している。毎回の訓練では、危機管理マニュアルからポイントを絞り目的を明確化して行うことができた。役割によっては、取り組み内容をより明確に示す必要があるため、今後検討・改定する。</li> <li>・情報機器紛失0件、個人情報紛失0件、交通加害事故1件。交通安全では、教職員全員が自己目標を決め、「交通安全宣言」として玄関に掲示を行った。</li> </ul>
	<p>ア（業務改善と明るい職場づくり）</p> <p>心にゆとりがあり、教育公務員としての自覚と仲間を大切にする姿勢をもった教職員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革の取り組みとして、「夢の実現委員会」を設置。事務処理の効率化を目指し、現在マニュアルを作成中である。また、行動指標の意識化として、毎週水曜日、金曜日の16時30分に職員が輪番で放送をかけ、ワークライフバランスや交通安全についての呼び掛けを行っている。</li> <li>・毎週水曜日を定時退勤日（18時完全閉庁）とし、その他の曜日は19時を完全閉庁時刻とし、取り組んでいる。これまでの取り組みで定着してきている。</li> </ul>
	<p>イ（専門性）</p> <p>学習指導要領を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を通して、実践力と専門性のレベルアップを図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメント委員会を設置し、部主事・学年主任が参加して、各学部・学年の年間指導計画を確認し合い、学習のつながりや関連について確認した。</li> <li>・各学部に授業アドバイザーを設け、ベテラン教員がその役割を担っている。学年の公開授業や一人一授業などの機会を捉えて授業の準備段階から話し合いに参加し、広い視点から助言を行ったり、教材開発のアイデアを出したりしている。若手教員の育成のみならず、ベテラン教員自身の学びを深め専門性を向上させる取り組みとなっている。</li> <li>・学習指導要領の内容を踏まえた系統性のある授業計画の作成・実践を目指し、体育課では12年間の学習内容の整理を行った。今後は全体計画を立案し、各学年の年間指導計画へとつなげられるよう準備を進めているところである。</li> </ul>

年 度	取組概要	成果及び課題
	ウ (センター的機能) 社会に開かれた教育課程の実現を目指した地域・学校・家庭の協働強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な保護者や関係機関との連携をベースにしながら、必要に合わせてケース会議、学習会等を行っている。特に個別に家庭支援が必要なケースについては、定期的なケース会議を行い、関係者が役割の進捗状況を報告し合いながら支援を継続する取組へとつながっている。</li> <li>校内の看護師やスクールカウンセラーとの連携、PT・ST・OT等の連携を通じて、児童生徒の実態を多角的に捉え、指導・支援の充実へとつながっている。また、専門家からのアドバイスについて、校内掲示板を通じて全職員で共有している。</li> </ul>
	ウ (ふれあい活動の実践) 共生共育の実現に向けたコミュニティスクールの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい活動を各学部の年間指導計画に位置付けたことで、地域資源を活用した授業実践が計画的に行われている。(お茶の手もみ体験、地域販売会、掛川東病院花壇整備、生活介護事業所びのほーぷとのさつまいも苗植え体験等)</li> <li>高等部園芸班では、学校前の地域交流花壇の整備を通じて、地域ボランティアの方々との交流授業を行っている。園芸の知識が豊富な方から、土づくりや花苗の育て方について、直接アドバイスをもらう機会となっている。</li> </ul>

## 5 教職員について

### (1) 異動状況

区分	本 務 職 員											小計	臨時的・会計年度任用職員							小計	合計		
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	教諭(任)	養護教諭	栄養教諭	主査	主任	主事		技能長	教諭(臨)	非常勤講師	スクールカウンセラー	医療的ケア看護職員	実習支援指導員	就労促進専門員			非常勤労務職員	非常勤嘱託員
転出者			1		18	2			1	1	1		24									0	24
退職者					4	1							5	9	1				1	1	1	13	18
転入者			1		18				2				21									0	21
新任者					7								7	6	1		1	1	1	2		12	19
差引増減	0	0	0	0	3	△3	0	0	1	△1	△1	0	△1	△3	0	0	0	1	0	0	1	△1	△2

### (2) 職員数

区分	本 務 職 員											小計	臨時的・会計年度任用職員							小計	合計		
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	教諭(任)	養護教諭	栄養教諭	主査	主任	主事		技能長	教諭(臨)	非常勤講師	スクールカウンセラー	医療的ケア看護職員	実習支援指導員	就労促進専門員			非常勤労務職員	非常勤嘱託員
男		1		1	39				1			1	43	8	1		1		2			12	55
女	1		1		73	5	2	1	2				85	5		1	5		1	14	1	27	112
計	1	1	1	1	112	5	2	1	3	0	0	1	128	13	1	1	5	1	16	1	39	167	

(3) 健康管理について

【令和4年度】

ア 健康管理の推進

- 生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドックの実施の徹底と、健診後の事後指導を積極的に行うことにより、健康管理や健康づくりの意識向上を図った。
- 職員安全衛生委員会を毎月開催し、教職員の健康状態を常に把握できるよう努めた。状況によっては、受診を勧めたり健康相談を行ったりした。また、労働環境についても取り上げ、働きやすい環境づくりに努めた。
- 新型コロナウイルス感染症対策については、教職員も本校ガイドラインや感染状況に応じた指針に基づいて行動するよう、適宜働き掛けた。

イ 腰痛予防対策について

- 新型コロナウイルス感染症対策により、全員が揃っての腰痛予防体操は実施できなかったが、対象者には腰痛検診を実施し、教職員の腰痛の有無や状態の把握に努めた。また、職員向け保健だより等を活用し、各自が腰痛予防を意識できるよう情報を発信した。

ウ ストレス、メンタルヘルス関連について

- 職員安全衛生委員会では教職員の状況を把握するとともに、必要に応じて個別面談を実施するなどして、教職員のメンタルヘルスの維持、向上に努めた。
- 毎週水曜日を定時退勤日と定め、18時完全閉庁するようにした。また、2学期からは、毎日19時を完全閉庁時刻とし、タイムマネジメントやワークライフバランスの意識を高めるように働き掛けた。
- 職場の健康づくり支援事業を活用し、12月に「特別支援学校教員のためのセルフケア術」を実施した。

【令和5年度】

ア 健康管理の推進

- 教職員健康診断（生活習慣病健診、指定年齢健診、人間ドック、婦人科検診等）の確実な実施を徹底し、教職員の健康状態の把握に努めている。検診の結果、再検査・精密検査が必要な職員には早めに受診するよう呼び掛けている。
- 職員安全衛生委員会を毎月開催し、教職員の心身の健康状態の把握に努めている。また、労働環境についても取り上げ、環境の改善や働きやすい環境づくりに努めている。
- 新型コロナウイルス感染症対策については、5類への移行に伴って見直しを行った。感染症流行状態が落ち着いている状況（平時）の取り組みを共有し、適切な対応（換気・手洗いの励行）を講じた上で、様々な学習に取り組んでいる。

イ 腰痛予防対策について

- 6月より、週1回の全職員による腰痛予防体操を行っている。各自のペースでゆっくりと体をほぐすことで、腰痛予防への意識が向上している。
- 対象者には腰痛検診を実施し、腰痛の有無や状況の把握を行った。

ウ ストレス、メンタルヘルスについて

- 毎月1回の職員安全衛生委員会を実施し、教職員の体調や精神状態の把握を行った。残業が増加傾向にある教職員については、業務内容の精選を行ったり事務処理時間の確保に努めたりと、部主事や学年主任が連携して取り組みを始めている。
- 毎週水曜日の定時退勤日（18時完全閉庁）、月・火・木・金曜日の19時完全閉庁については、昨年度からの取組の成果が出ており、教職員に定着している。

(4) 教職員の研修について

令和4年度

目的・研修内容	成果
1 研究テーマ 「自ら考える人を目指した授業づくり～児童生徒の的確な実態を捉えた主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善～」	・グループ別研修を中心に、授業研究会や学習会等を通して授業力向上を図る取組を行った。 ・令和4～5年度の2年計画研修の1年目として、次のような成果があった。

目的・研修内容	成 果
<p>2 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自ら考える人」を目指した授業づくりを推進する。</li> <li>・学習指導要領に基づく授業づくりを推進する。</li> <li>・教職員の授業力や専門性の向上を図る。</li> </ul> <p>3 研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由教育、小学部、中学部、高等部の4つの研究グループを組織し、全体の研究テーマに基づき、授業実践研究を行う。</li> <li>・児童生徒の実態を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に取り組む。</li> </ul>	<p>(ア) テーマに迫る授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が主体的、対話的に学ぶ姿を想定し、それらを引き出す手立てを講じた授業構想ができた。</li> <li>・授業研究会の事後研修では、主体的・対話的で深い学びの視点に沿って協議をし、有効あるいは改善した手立てなどを共通理解できた。</li> </ul> <p>(イ) 児童生徒の実態を捉えた授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくり専門講座（外部講師を招聘）やミニ学習会（分掌課が担当）を行い、児童生徒の発達段階や学習指導要領に基づく授業づくりについて学び、生かすことができた。</li> <li>・実態把握の際には、認知特性や発達段階、生活状況など、複数の角度からの実態把握をすることができた。それらを基に、目標や学習内容、手立てを考えるとという授業づくりの流れを確認することができた。</li> </ul> <p>(ウ) 授業実践を支える取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに年間2回の授業研究会を実施し、事後検討会で協議の視点を明確にした話し合いを実施することで、全員参加型の授業研究を行うことができた。</li> <li>・単元カードや授業カードの形式を統一したり、グループ研修担当者が主任者会に参加して研修の進捗状況について伝達したりすることで、つながりのある研修を推進することができた。</li> </ul>
<p>初任者研修、2年次研修、3年次研修、6年次研修、中堅教諭等資質向上研修を推進する。</p> <p>指導教員を中心に学校全体で取り組み、教員の資質の向上を図る。</p> <p>初任者に対して基礎的な理論や技術、子どもの見方などの研修を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の目標達成のために、校外研修や授業支援訪問、指導教員を中心とした研修を計画的に実施し成果を上げることができた。</li> </ul>

令和5年度

目的・研修内容	成 果
<p>1 研究テーマ</p> <p>「自ら考え、行動する人を目指した授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～」</p> <p>2 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自ら考え、行動する人」を目指した授業づくりを推進する。</li> <li>・学習指導要領に基づく授業づくりを推進する。</li> <li>・教職員の授業力や専門性の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4～5年度の2年計画研修の2年目として、グループ別研修を中心に、授業研究会や学習会等を通し、授業力向上を目指した取組を行っている。</li> <li>・7月には研修ウィークを設定した。浜松学院大学の横山孝子先生からは、「各教科等を合わせた指導」の視点から本校の研修について御講演いただいた。教科等横断的な視点で指導計画を立てることの良さ（生活を基盤にすることで「見方・考え方」が身に付きやすい）や合わせた授業で各教科の内容をどのように学ぶのか・学んでいるのかを検討・評価することで、主体的・対話的で深い学びの実現へと結びついていくことを教えていただいた。また、本物の必然的で自然な生活の流れの中では、児童生徒が自分から思考し、行動することを改めて教えてくださり、本校の研修の意義を再確認することができた。</li> </ul>

目的・研修内容	成 果
<p>3 研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由教育、小学部、中学部、高等部の4つの研究グループを組織し、全体の研究テーマに基づき、授業実践研究を行う。</li> <li>・ 昨年度研修で身に付けた実態把握の力を活かし、児童生徒の考える力を引き出すための授業づくりに焦点を当て、まずは「主体的・対話的」な学びの充実に向け、授業展開、単元構想、手立ての精選について研修する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一学期には、全ての学部・グループで授業研究会を行った。肢体不自由教育グループでは西部特別支援学校から岸和美先生をお迎えし、「自ら考え、表現する」ことについて、表現するまでには、感覚を入力して脳で処理し、出力して運動する（手先や動き、言葉で表現する）という一連の流れがあることを整理していただいた。その上で、安心できる人間関係が何よりも大切なベースとなることや体験の積み重ね、意図的な働きかけを日々丁寧に行っていくことの大切さを教えていただいた。また、中学部では静岡北特別支援学校より郡哲也先生をお迎えし、生徒の学びの姿と教師の働き掛けの工夫をセットで考えて授業づくりに生かすこと、そのためには、的確な課題分析が重要であることを教えていただいた。これら研修会での学びを基にしなが、今後の授業づくりに取り組んでいく。</li> </ul>
<p>初任者研修、2年次研修、3年次研修、6年次研修、中堅教諭等資質向上研修を推進する。</p> <p>指導教員を中心に学校全体で取り組み、教員の資質の向上を図る。</p> <p>初任者に対して基礎的な理論や技術、子どもの見方などの研修を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の目標達成のために、校外研修や授業支援訪問、指導教員を中心とした研修を計画的に実施し成果を上げている。</li> <li>・ 研修では概論だけではなく、実際の授業づくりや指導に生かすことができるよう、具体例を示したり、周りの教員が共に考えるOJTの考え方も取り入れながら取組を行っている。</li> </ul>

## 6 防災対策について

令和4年度は、年度開始後すぐに、前年度末に改訂した危機管理マニュアルを用いて全職員対象に危機管理研修を行った。下校時避難訓練は、新型コロナウイルス感染症対策のため、2年間行えていなかった（紙面開催及び図上訓練のみの実施）が、今年度はスクールバス下校便にて、スクールバス介助員と教職員の動きの確認（電話での状況報告、災害対策本部からの運行の指示等）を行った他、放課後等デイサービス事業所とはCOCOOを用いた児童生徒の安否確認を実施した。

また11月には、開校以来初めてとなる土砂災害に係る避難訓練を実施した。掛川市南郷地区に高齢者等避難指示が出たことを想定し、災害対策本部の指示により、一次避難（本校南棟の児童生徒は、中央棟・高等部棟の指示された場所に避難する）を行った。

学校所在地域である「希望の丘」にある8事業所で、会議や合同防災訓練を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、延期・中止を余儀なくされた。今後も掛川市健康福祉部「中部ふくしあ」所長を中心に、希望の丘事業所で連携体制の整備等を行っていく予定である。

年 度	月 日	内 容
令和4年度	4月4日、5日	危機管理研修（本校の危機管理について）
	4月27日	防災訓練①（地震、避難経路確認）
	5月27日	防災訓練②（火災、避難経路確認）
	6月27日	防災訓練③（地震、起震車体験）
	7月14日	ジュニア防災士養成講座（高等部2年生）
	7月22日	引き渡し訓練（各学部新1年生・小4年生・転入生）
	8月30日	総合防災訓練への参加の呼び掛け、防災だより配信（COCOO）
	～9月5日	（地域避難所までの避難経路確認、避難場所確認）
	9月5日	防災訓練④（地震、火災）初期消火訓練
	9月22日	防災体験学習（中高等部肢体グループ）
	10月19日	下校時避難訓練（介助員・教員の動き確認、スクールバス安否連絡実地訓練）



年 度	月 日	内 容
	11月29日	防災訓練⑤（土砂災害時避難、非常食体験）
	12月4日	地域防災訓練への参加の呼び掛け、防災だより配信（COCOO） （地域避難所までの避難経路確認、避難場所確認）
	1月16～20日	災害伝言ダイヤル171体験（再生、録音）
	1月20日	防災訓練⑥（Jアラート発令時）
	2月2日	防災訓練⑦（地震または火災）※事前予告なし

令和5年度は、年度始めに危機管理に関する研修会を実施し、危機管理マニュアルを用いて非常時や災害時の対応について基本情報を共有した。

7月には、開校以来初めてとなる掛川市合同福祉避難所開設・運営訓練を実施した。今回の訓練では、受付・避難スペースの設置（パーティションや簡易ベッドの設置）、トイレ実演、発電機・浄水器の稼働に焦点を絞って実施した。発災から福祉避難所開設までの流れの確認、要支援者受け入れ前の準備や手続き、避難所の設営、実際の運営を行うことができた。一部の児童生徒や保護者にも参加していただき、体験を通して貴重な御意見をいただくことができた。

10月には、昨年度から引き続き下校時避難訓練を行う予定である。今年度もスクールバス下校便にて、スクールバス介助員と教職員の動きの確認（電話での状況報告、校長指示事項の伝達、緊急避難先の確認、児童生徒引渡し手順の確認等）を行う予定である。同時に、放課後等デイサービス事業所とのCOCOOを用いた児童生徒安否確認、自主通学生徒の所在確認も行う。

学校所在地域である「希望の丘」にある8事業所との連携が重要であるため、今後、合同防災会議に出席し、各事業所との連携強化・災害時における体制づくりを行っていく予定である。

年 度	月 日	内 容
令和5年度	4月5日	危機管理研修（本校の危機管理について）
	4月19日	防災訓練①（地震、避難経路確認）
	5月12日	防災訓練②引渡し訓練（各学部新1年生・小4年生・転入生）
	6月7日	防災訓練③（火災、避難経路確認）
	7月11日	ジュニア防災士養成講座（高等部2年生）
	7月20日	防災訓練④防災学習の日（土砂災害、寝袋体験、非常食体験）
	7月27日	防災研修（掛川市合同福祉避難所開設・運営訓練）
	8月30日	災害用伝言ダイヤル再生訓練（地震）
	～9月5日	
	9月1日	総合防災訓練への参加の呼び掛け、防災だより配信（COCOO）
	10月17日	防災訓練⑤下校時避難訓練
	11月30日	防災訓練⑥総合避難訓練（起震車、煙体験、消火訓練、搜索救助） （地域避難所までの避難経路確認、避難場所確認）
	11月末～12月初	災害用伝言ダイヤル録音訓練（地震）
	1月15～19日	防災訓練⑦（原発事故）
	1月15日	防災訓練⑧（1年間の訓練のまとめ）※事前予告無し
	2月中	防災訓練⑨（爆破予告）
	未定	防災訓練⑩（希望の丘での訓練）

## 7 学校開放について

地域に開かれた学校づくりの一環として、教育活動に支障のない範囲で学校の施設・設備を地域に開放する。

### 【年度別学校施設開放状況】

年 度	No.	利 用 者 名	利用施設	利用日数 （日）	利用者数 （人）	利用者負担金 （電気料）（円）
4	1	優武空手研技会道場	体育館	76	1,616	15,413
	2	地域若者サポートステーションかけがわ	体育館	1	20	255
	3	研究会	体育館	10	204	3,608
		計		87	1,840	19,276

年度	No.	利用者名	利用施設	利用日数 (日)	利用者数 (人)	利用者負担金 (電気料)(円)
5	1	優武空手研技会道場	体育館	30	541	5,765
	2	地域若者サポートステーションかけがわ	体育館	1	16	285
	計			31	557	6,050

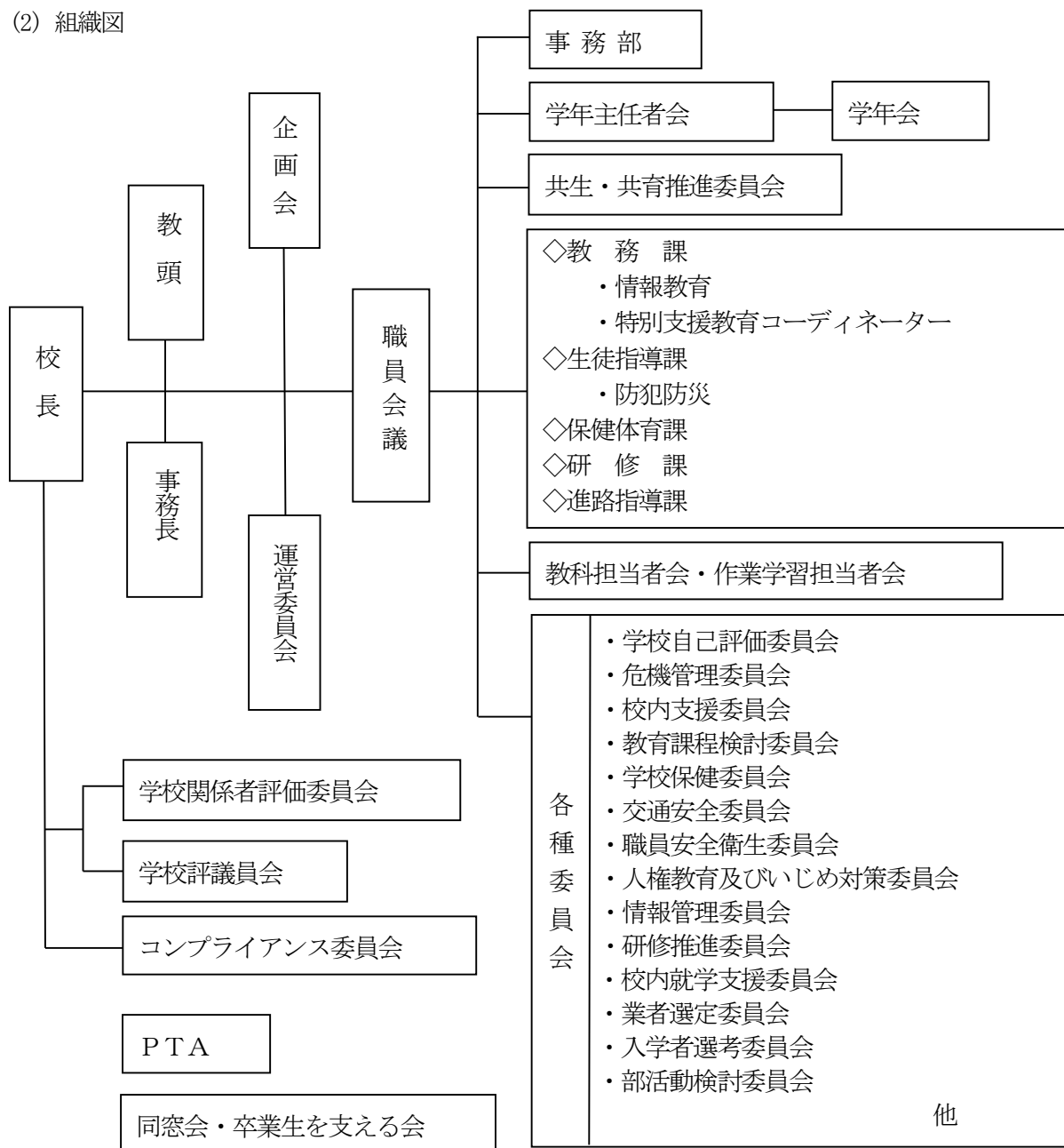
## 事務事業の概要(御前崎分校)

### 1 概況

#### (1) 学校の沿革

- 平成 17. 4. 1 高等部分校設置準備委員長他 5 人発令
- 17. 4. 20 袋井養護学校分校設置連絡協議会発足
- 18. 3. 15 静岡県立池新田高等学校北館 2 階改築工事竣工
- 18. 4. 1 静岡県立池新田高等学校内に静岡県立袋井養護学校御前崎分校開校
- 18. 4. 7 開校式、第 1 回入学式挙行
- 20. 4. 1 静岡県立袋井特別支援学校御前崎分校に校名変更
- 27. 4. 1 静岡県立掛川特別支援学校の開校に伴い、袋井特別支援学校御前崎分校から掛川特別支援学校御前崎分校に校名変更
- 28. 6. 11 創立 10 周年記念行事挙行
- 令和 4. 4. 1 学校運営協議会設置

#### (2) 組織図



## 2 目指す学校像

### (1) 教育目標「元気 笑顔 夢の実現」

元気＝命の大切さを基本とし、心身ともに健康な生活を送ること

笑顔＝日々の学校生活が学習面・生活面で満たされ、人・もの・ことに主体的に関わること

夢の実現＝日々の教育を明日に繋げ、卒業後に自立した豊かな生活を送れるようにすること

#### 目指す生徒の姿

命の大切さや自己を理解し、人や社会とつながりながらその能力や可能性を最大限に発揮して、主体的に学び生活する姿

### (2) 目標具現化の柱

ア<安全・安心> 人権・個性を尊重し、安全・安心な教育環境、学校体制と教育の充実

イ<授業>一人一人の自立と社会参加を目指した指導と授業づくり

ウ<連携>家庭、地域、関係諸機関との連携と地域と協働した学校づくり

## 3 監査対象期間の年度別重点目標

### (1) 令和4年度の取組目標・取組目標への評価・成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題（○成果・課題）
	多様な価値観を認め、たくましい心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動全体において道徳性を意識した指導や評価をすることができた教員 100%</li> <li>相手のことを考えて行動することができた生徒 100%</li> <li>池新田高校生徒との行事や授業交流等の生徒及び教員の肯定的評価 100%</li> </ul>	職員評価 100%  生徒評価 81%  生徒評価 78%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が相手のことを考えた言動ができている。一方でSNSでのトラブルは起きており、学習において、内容理解はできるが、「自分ごと」として捉えることが課題。</li> <li>交流に対して苦手意識がある生徒もいるが、体育行事には目的意識をもって交流できた。また、作業学習をとおして行った交流は、どの生徒もよい表情で参加できた。</li> </ul>
ア	人権を尊重した教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手を尊重する気持ちを持って生徒や同僚に接することができた教員 100%</li> <li>生活アンケートの結果を組織的に対応することができた教員 100%</li> <li>いじめゼロ</li> <li>人権侵害ゼロ</li> </ul>	教職員評価 100%  教職員評価 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートを実施後、結果を教職員間で共有した。生徒の訴えに対し迅速に対応し、学部で共有できた。</li> <li>人権意識として、日々の教育活動の中で、生徒が「分からない」状態になっていないか振り返り実態にあった課題設定や働き掛けをすることができた。</li> </ul>

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題（○成果・課題）
ア	<b>規範意識の向上</b>	・行動目標を意識して生活し、実践することができた生徒100%	生徒評価 85%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に生徒を対象に校則を伝え、OUD（御前崎分校ユニバーサルデザイン）について考える時間を設定できた。</li> <li>・より生徒が行動目標を意識できるよう、生徒会組織や活動を活用したい。</li> <li>・自らの生活を振り返り自己評価にCをつけた生徒が数名いるが、学校のきまりから外れてしまう生徒はいない。生徒の自己肯定感を高めていくことも必要。</li> <li>・学校のきまりについて、内容が適切か見直していく。</li> </ul>
	人の心や体について理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の健康や心身の状態について考えることができた生徒90%以上</li> <li>・生徒の心身の状態を把握し、養護教諭やスクールカウンセラーと協力しながら取り組むことができた教員100%</li> </ul>	生徒評価 88%  教職員評価 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・80%以上の生徒が、体力づくりでがんばっていることや自分の気持ちを落ち着かせる方法について回答できた。運動前のセルフケアに努め、怪我の予防ができた。</li> <li>・「養教⇔学年担当⇔スクールカウンセラー」の連携ができた。</li> <li>・生徒の不安定時だけでなく、気持ちが安定しているときも面談を継続した支援が有効だった。</li> </ul>
	危険予測・回避能力向上のための安全教育・防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災・防犯・消費者教育・性教育等、外部人材を活用しながら計画的に実施し、生徒にとって効果的だったとする教員100%</li> <li>・学習をとおして、自分の身を守るために必要なことが理解できたとする生徒100%</li> <li>・重大事故ゼロ</li> </ul>	教職員評価 100%  生徒評価 93%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度よりシェイクアウト訓練、原子力防災学習を実施。授業と連携してポイントをおさえ、繰り返し行ったことが効果的だった。</li> <li>・「通学路の危険箇所を理解して登校できた」「防災訓練で地震や火事の際の身の守り方が分かった」とほぼ全員の生徒が回答した。</li> <li>・原子力防災学習は、さらに生徒の実態に沿った訓練方法や学習内容を検討する。</li> </ul> <p>・重大事故ゼロ。</p>
イ	<b>生徒の働く力とよりよく生活する力を育てる</b>	・実態に応じた個別の指導計画を作成し、内容について理解できたとする保護者100%	保護者評価 93%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成のポイントを整理して職員間で共有した。さらに、年間指導計画と連動して実態に即した目標、内容を設定できる方法を「見える化」して示したことは有効であった。</li> </ul>

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題（○成果・課題）
イ	<b>二十歳の夢を実現する授業実践</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に応じた目標や支援をチームで共有し、授業へ反映することができた教員 100%</li> <li>20歳の夢の実現に向けて、今、取り組むべき目標について答え、実践することができた生徒 100%</li> </ul>	教職員評価 88%  生徒評価 66%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へ授業で使用した教材を示して個別の指導計画の説明をすることは有効だった。家庭生活に反映できるよう、家庭で取り組んでほしいことを積極的に伝えていきたい。</li> <li>職業、家庭の学習指導計画の精選ができた。社会自立を目指し学習指導要領に沿った実践を進めながら整理したい。</li> <li>生徒の実態や学年に応じて、何を指して目標を設定するか、また、どのように振り返ることが、生徒にとって効果的かを見直して実践した。</li> </ul>
	生徒が主体的に協働的に学ぶ授業実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人1授業、事例検討をとおして授業を評価し、授業改善を行うことができた教員 100%</li> <li>チームで生徒の課題について分析し、支援方法を考えたことで生徒の成長・変容がみられたと答える教員 100%</li> </ul>	教職員評価 94%  教職員評価 94%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一授業研究では、本時の目標→目標に向かう支援→評価が整理できた。</li> <li>具体的な指導方法だけでなく単元全体で身に付けさせたい力について検討できた。</li> <li>夏季研修、校内研修を有効に使い、単元目標や計画について共有、検討することができた。また、動画を用いて検討したことで授業改善につながった。</li> </ul>
	生徒が自分の良さを実感できる学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の得意分野を生かし、取り組むことができた生徒 100%</li> <li>生徒が情報機器を操作し、多様な学びの実践をすることができたとする教員 100%</li> </ul>	生徒評価 94%  教職員評価 82%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人が得意な教科や活動を答えることができた。</li> <li>情報機器については、指導に有効活用できるよう教師が使い方を学んでいく必要はあるが、学習の中で活用することはできた。</li> <li>職業科（情報）で扱う内容は年間指導計画の中で整理すると共に他の教科等の中でも有効に使う機会を設けていく。</li> </ul>
ウ	地域の人材や教育資源を活用した活動実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域作業先及び交流先の肯定的評価 100%</li> <li>地域とのつながりを意識して活動することができたとする教員 100%</li> </ul>	肯定的評価 100%  教職員 AB評価 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域作業先（5か所）にアンケートを実施。肯定的な評価を受けた。</li> <li>大産業まつり販売会に向けた学習で、地域に出向いて、宣伝活動を行ったことは、生徒にとって必然性があり、有効な活動だった。</li> </ul>

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題（○成果・課題）
ウ	<b>生徒一人一人の適性・希望を踏まえた進路指導の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や関係諸機関と連携して就労に向けての進路指導を行うことができたとする教員 100%</li> <li>校内研修の充実により教員の進路指導力が向上したとする教員 100%</li> </ul>	教職員評価 87%  教職員評価 100%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「働く人になるために必要な力」については、保護者、生徒に繰り返し伝えたい。</li> <li>進路面談を行う際は、進路の方向性について、学年でさらに検討して提案したい。</li> </ul>
	学校及び生徒の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的なホームページの更新をすることができたとする教員 100%</li> </ul>	教職員評価 76%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期は計画的に更新できるようになってきたが、発信する意義を共有し、計画的に進めていくことが課題。</li> <li>QRコード、コクーを使ったPRも検討していく。</li> </ul>
	センター的役割と地域や関係諸機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域からの相談依頼について肯定的評価 100%</li> </ul>	相談依頼先からの肯定的評価 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>池新田高校職員を対象にした障害への理解啓発研修（1回）及びケースの相談を実施。</li> <li>学区の中学校から依頼を受け授業への取り組み方や欠席状況に課題のある生徒への授業や進路指導への助言（3校）</li> </ul>
	<b>教職員の専門性の向上</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部人材活用により、教育内容の充実が図られ、授業改善に活用できたとする教員 100%</li> </ul>	教職員評価 88%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費生活講座、防災教育、食育講座等を実施した。生徒の実態を踏まえた講義内容の打ち合わせを丁寧に行っていくことが課題。</li> <li>作業学習の外部人材の活用は、製品開発や指導力の向上に有効だった。一方、作業種によっては、人材の確保が課題。</li> </ul>
	教育公務員としての自覚を高め、規範意識の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>不祥事根絶研修をとおして、意識が高まったと答える教員 100%</li> <li>不祥事ゼロ</li> </ul>	教職員評価 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>不祥事ゼロ達成。今後も継続したい。</li> <li>職員会議や学年会で時間を設定し、生徒への接し方について意見交換できた。</li> </ul>
	<b>「チーム御分」で取り組む体制づくり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員一人一人が役割を果たし、チームで協力して仕事を行うことができたとする教職員 100%</li> </ul>	教職員評価 100%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年内だけでなく、他学年や養教、級外と協力して業務を遂行できた。</li> </ul>

## (2) 令和5年度の取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法	成果目標
ア	生徒が安全・安心に生活することができ、活動しやすい教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が安全に対する意識を高め、環境づくりを行う</li> <li>毎月安全点検の実施</li> <li>ヒヤリハットの情報共有と分析</li> <li>校内・教室内の環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心な環境整備や再発防止の対策ができたと答える教職員 100%</li> <li>生徒の重大事故ゼロ</li> </ul>
	<b>心や体の健康等、自己管理能力及び体力の向上</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自分自身の健康について関心を持ち、心身ともに健康的な生活を送るための意識の向上</li> <li>生徒からの相談の充実（SCとの連携）</li> <li>性の指導について計画的な実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業やアドバイスにより自分自身の気持ちや体調を整える方法を知り、実践することができたとする生徒 90%以上</li> </ul>
	危険予測・回避能力向上のための安全教育・防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害についての危機管理マニュアルの確認・厳守の徹底</li> <li>生徒自らが判断し、命を守り危険を回避できるための安全・防災学習の実施（計画的な防災学習）</li> <li>通学路確認と自転車の安全点検月1回実施</li> <li>将来を見据えた消費者教育の実践</li> <li>携帯マナー講座の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルを確認し、緊急事態に即した行動のとり方が理解できた、意識が高まったと答える教職員 100%</li> <li>学習をとおして、自分の身を守るために必要なことを理解し、行動する力がついたとする生徒 90%以上</li> <li>交通事故ゼロ</li> </ul>
	人権を尊重した教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員自己チェックシートの活用や毎月の人権目標を掲げることで、人権感覚の向上を図る。</li> <li>人権や道徳教育に関する研修を実施</li> <li>年2回の生活アンケート（いじめ、体罰、セクハラ等）の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権に関する研修会や自己チェックシート分析等で学んだことを日々の指導に生かすことができたと答える教職員 100%</li> <li>生徒からの訴えや生活アンケートの結果をチームで共有し、迅速に問題に対し対応することができた教職員 100%</li> <li>いじめ・人権侵害ゼロ</li> </ul>
	<b>「チーム御分」で取り組む体制づくり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年・学部・分掌内で目標や情報を共有し、組織的な協体制の確立。</li> <li>風通しのよい職場づくりをとおしてチーム力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員一人一人が役割を果たし、チームで協力して仕事を行うことができた、気軽に相談・意見を言い合えることができたとする教職員 100%</li> </ul>
イ	<b>卒業後の夢の実現を目指すための活動実践</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業科や作業学習等の学校生活の様々な時間の中で勤労観や職業観を育成する</li> <li>現場実習での他者評価を日々の授業や生活に生かす</li> <li>保護者と教職員が連携・協力して生徒の成長を支え、卒業後の夢の実現を目指す</li> <li>P A T H等を活用し、具体的な行動目標を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に応じた目標や支援をチームで共有し、授業へ反映することができた教職員 100%</li> <li>卒業後の夢の実現に向けて、今、取り組むべき目標について答え、行動することができた生徒 90%以上</li> </ul>
	学習指導要領を踏まえた各教科別等指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の生徒の実態把握と個別の指導計画に基づく継続性を踏まえた年間指導計画と学習指導の充実</li> <li>職業・家庭の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画の内容やその根拠となる説明について理解できたとする保護者 100%</li> </ul>



	取組目標	達成方法	成果目標
イ	主体的・対話的で深い学びのある授業実践の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修を軸に主体的、対話的で深い学びを実現するための授業実践と評価による授業改善</li> <li>単元カードを活用した、授業検討の実施</li> <li>生徒の気づきを大切に、問題解決する場の設定</li> <li>チームで作り上げる一人1授業研</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な目標を設定し、授業実践や授業改善を通して生徒が成長したと答える教職員 100%</li> <li>授業の中で学び・考え・取り組んだことや仲間とともに活動したことが楽しいと答える生徒 90%以上</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用した有効な授業実践の紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中でICTを有効に活用することができたとする教職員 100%</li> </ul>
ウ	<b>池新田高校との共生・共育を推進する</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>池新田高校との行事・授業交流や避難訓練等を計画的に行う</li> <li>スクラムグッドマナー</li> <li>池新田校舎内清掃依頼アンケート実施</li> <li>部活動交流の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>池新田高校との交流に対する生徒満足度 90%以上</li> <li>交流の中で池高生との共生・共育の良さを生かす働き掛けをしたと答える教職員 100%</li> </ul>
	地域の人材や教育資源を活用した活動実践と連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>長年積み上げたつながりや地域資源を大切にされた地域における交流活動・販売会及び学習活動を推進する。</li> <li>地域作業の実施</li> <li>地域販売会（御前崎市役所、大産業祭り）</li> <li>コミュニティースクールの機能を活用した支援体制の充実</li> <li>作業学習や各教科の授業で外部講師の専門性を生かした授業の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の目標を達成するために地域での活動や学ぶ機会を活用することができたとする教職員 100%</li> <li>地域作業や地域での販売会に自分から取り組むことができた答える生徒 90%以上</li> <li>外部人材活用により、教育内容の充実及び生徒の知識や技術の習得が図られたとする教職員 100%</li> </ul>
	<b>生徒一人一人の適性・希望を踏まえた進路指導の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズに応じ、家庭や関係諸機関との連携と必要な支援の推進</li> <li>チーム学校として支援体制の充実を図る</li> <li>進路指導の手引きを活用して校内研修を行い、就労に関わる教員の進路指導力の向上を図る</li> <li>ミニ進路学習会の実施</li> <li>積極的な進路指導に係る情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する情報を得たことで、家庭の中での話し合いや進路面談が充実したと答える保護者 100%</li> <li>進路研修会・懇談会</li> <li>進路だより</li> <li>進路コーナー</li> <li>校内研修の充実により教員の進路指導力が向上し、生徒一人一人の進路相談に生かすことができたとする教職員 100%</li> </ul>
	学校及び生徒の魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動に対する保護者や地域の理解・関心を高めるための教育活動を積極的に発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御前崎分校の教育活動や魅力について計画的に発信することができた答える教職員 100%</li> <li>各学年週1回以上HP更新</li> </ul>
	センター的役割と地域や関係諸機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>池新田高校及び地域関係者からの特別支援教育のニーズに応じた丁寧な対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に関する地域からの相談依頼についての対応・支援 100%</li> </ul>

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取組概要	成果及び課題
令和4年度	<p>(1) 多様な価値観とたくましい心の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体をとおした道德教育の実践</li> <li>・池新田高校との共生共育を推進し、ともに学び合い、認め合う仲間としての意識の醸成</li> </ul> <p>(2) 人の心や体について理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育の授業と日々の教育活動をつなげて指導していく。</li> <li>・生徒の心身の状態を把握するとともに心身の状態について生徒自ら向き合える態度を育めるよう対話を中心とした働きかけを丁寧に行う。</li> </ul> <p>(3) 危険予測・回避能力向上のための安全教育・防災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理に関する迅速な情報提供と共有・対応</li> <li>・将来を見据えた消費者教育の実践</li> <li>・計画的な防災教育</li> </ul> <p>(4) 生徒の働く力とよりよく生活する力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握と個別の指導計画に基づく学習指導の充実</li> <li>・PATHの技法を用いた職業科の実践</li> <li>・卒業後の生活を具体的にイメージできるように、定期的な生徒面談の実施</li> </ul> <p>(5) 「チーム御分」で取り組む体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主任会を核とした情報共有と相談</li> <li>・学年・学部・分掌内の協力体制の構築</li> <li>・計画的な仕事の進め方により業務の効率化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSや挨拶をテーマに、対人関係トラブルを例に挙げた授業実践に取り組むことができた。今後においても道德の授業と日々の教育活動をつなげていけるように取り組んだ。</li> <li>・しぶき祭の宣伝活動等では積極的に呼び掛けをする姿が見られたり、LHR交流では協力したり言葉を交わしたりする姿が見られた。</li> <li>・LHR交流の前に具体的に活動内容を伝え、池高生徒と協力して作業をすることができ、生徒はやってよかったという感想をもつことができた。</li> <li>・校内実習の学習を通して生活リズムを整えることの大切さについて考えることができた。養護教諭からの情報を生徒の指導に生かしたり、スクールカウンセラーと協力したりして生徒の心身の状態を確認することができた。</li> <li>・養護教諭やスクールカウンセラーと連携することや保健学習で学んだことを日々の教育活動につなげたり、家庭と連携したりすることができた。</li> <li>・避難訓練や引き渡し訓練だけでなく、毎月のシェイクアウト訓練で自分の身を守る方法を実践できた。</li> <li>・SNSなど情報に関わる危機管理についても意識的に取り上げた。</li> <li>・「防災」についての学習を各学年において計画的に取り組んでいる。家庭においても保護者ともし地震が起こったらどうするのか、どこに避難するのか等を話し合うよう、PTA総会や懇談会での啓発を行った。</li> <li>・実態に応じた個別の指導計画を作成し、面談を通じて保護者に説明した。実態に応じた支援をチームで考えていける体制作りを行った。20歳の夢から下りた目標について生活チェックリストを活用して考えることができた。</li> <li>・日々のチェック表から気になることがあればPATHを活用して個別に指導をしたり、夢の実現に向け必要なことを生徒と一緒に確認したりすることができた。</li> <li>・学年だけでなく級外の職員とも協力して仕事を進めていくことができた。定期的に情報を共有しながら、計画的に仕事を進めていった。</li> <li>・作業学習や体育等、縦割りの授業も多かったが、状況に応じて学年を超えて協力ができた。</li> </ul>

年 度	取組概要	成果及び課題
令和5年度	<p>(1) 心や体の健康など、自己管理能力及び体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分自身の健康について関心を持ち、心身ともに健康的な生活を送るための意識の向上</li> <li>・生徒からの相談の充実（SCとの連携）</li> <li>・性の指導について計画的な実践</li> </ul> <p>(2) 「チーム御分」で取り組む体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年・学部・分掌内で目標や情報を共有し、組織的な協力体制の確立。</li> <li>・風通しのよい職場づくりをとおしてチーム力を高める。</li> </ul> <p>(3) 卒業後の夢の実現を目指すための活動実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業科や作業学習等の学校生活の様々な時間の中で勤労観や職業観を育成する</li> <li>・現場実習での他者評価を日々の授業や生活に生かす</li> <li>・保護者と教職員が連携・協力して生徒の成長を支え、卒業後の夢の実現を目指す</li> <li>・PATH等を活用し、具体的な行動目標を設定する</li> </ul> <p>(4) 池新田高校との共生・共育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・池新田高校との行事・授業交流や避難訓練等を計画的に行う</li> <li>・スクラムグッドマナー</li> <li>・池新田校舎内清掃依頼アンケート実施</li> <li>・部活動交流の実施</li> </ul> <p>(5) 生徒一人一人の適性・希望を踏まえた進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに応じ、家庭や関係諸機関との連携と必要な支援の推進</li> <li>・チーム学校として支援体制の充実を図る</li> <li>・進路指導の手引きを活用して校内研修を行い、就労に関わる教員の進路指導力の向上を図る</li> <li>・ミニ進路学習会の実施</li> <li>・積極的な進路指導に係る情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SHRなどで心身の健康チェックを行い、気持ちや体調を整えることを実践できた生徒もいた。また、ほとんどの生徒は個別に指導することを通して自分の心身の状態と向き合えたり教師からのアドバイスを実践しようとしたりしていた。</li> <li>・保健室から出された健康チェックカードを生徒が「自分ごと」として活用できるようにSHR等で「健康チェックカード」を確認していく。</li> <li>・各教員が自分の役割を果たして仕事を行うことができたが、仕事の偏りが見られることもあった。</li> <li>・生徒指導に関し、解決が難しい事案があったが、主任者会や企画会等で相談し、関係機関と連携し、組織として解決を図っていくことができた。</li> <li>・報・連・相・確認を大事に、今後も「チーム」として組織で対応していく。</li> <li>・校内実習の日誌では評価欄への記入だけでなく教師と個別に話をする中で課題に気付けるようにし、次につなげることができた。</li> <li>・現場実習での評価を受けて、学校生活の中でできる目標を考えることができた。</li> <li>・PATHについては職業や実習の導入で活用することができた。今後も将来の夢と今やるべきことのつながりを繰り返し生徒と確認しながら夢の実現への取り組みを自分ごととして捉えることができるように支援していきたい。</li> </ul> <p>・しぶき祭（文化祭）の共同制作やアピールレースなどの活動の意味付けや生徒からの発信を生かしたことで生徒の主体的な姿につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流前は、楽しみな生徒だけでなく不安を感じる生徒もいたが、交流後は前向きな感想を発表することができた。</li> </ul> <p>今後もSHR等を活用しながら事前に前年度や前回の「良い交流」の場面がイメージできるよう投げ掛けをしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路面談前には、部主事・主任・学級担任・進路を交え、一人一人のニーズに応じたよりよい進路について話し合うことができた。</li> <li>・現場実習前には生徒に職業性ピラミッドの図を活用しながら、働くための必要な力を伝え、その意味を一緒に考えることができた。</li> <li>・高等部分校なので、進路指導については、どの職員も進路指導ができるように、職員会議後のミニ学習会の中で、進路についての学習及び情報共有を行っていく。</li> <li>・保護者、本人には、実習前に事業所について情報をできるだけ詳細に伝え、家族の中で選択できるように努めた。</li> </ul>

## 5 教職員について

### (1) 異動状況

区分	本 務 職 員				小 計	臨時的・会計年度 任 用 職 員				小 計	合 計
	教 頭	教 諭	教 諭 (任)	養 護 教 諭		教 諭 (臨)	主 事 (臨)	非 常 勤 講 師	非 常 勤 労 務 職 員		
転出者		3			3					0	3
退職者					0			1		1	1
転入者		3			3					0	3
新任者					0	1		1		2	2
差引増減	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1

### (2) 職員数

区分	本 務 職 員				小 計	臨時的・会計年度 任 用 職 員				小 計	合 計
	教 頭	教 諭	教 諭 (任)	養 護 教 諭		教 諭 (臨)	主 事 (臨)	非 常 勤 講 師	非 常 勤 労 務 職 員		
男	1	7			8			1		1	9
女		7	1	1	9	1	1		1	3	12
計	1	14	1	1	17	1	1	1	1	4	21

### (3) 健康管理について

#### 【令和4年度】

#### ア 健康管理の推進

- ・今年度よりDBでの管理となった健康診断に関して、自らの健康のことと意識できるよう周知徹底した。
- ・健康診断の完全実施と、事後措置を徹底する。健康管理医からの指導助言を受け、教職員一人一人が自己の健康管理をすることができた。
- ・職員安全衛生委員会で職場環境についての協議を行い、教職員で情報を共有した。また、危険箇所等発見した場合は、早急に対応するよう心掛けた。

#### イ 新型コロナウイルス感染症対策について

- ・職員安全衛生委員会で感染症対策について協議し、教職員一人一人の予防への意識を高めた。また、健康管理医や学校医からの指導助言を受け、継続した感染対策を実施した。

#### ウ 職場の健康づくり

- ・職場の健康づくり支援事業を活用し、講師を招聘し、楽しみながら自分の体を整える方法を知り、ストレス解消に役立てる健康講座を行った。
- ・職員室に教職員向けの健康目標を掲示し、互いに協力し合いながら働けるように心掛けた。
- ・平日の最終退勤時間の設定。毎週水曜日の定時退勤、夏季休業中の定時退勤、完全閉庁日設定を実施した。

【令和5年度】

ア 健康管理の推進

- ・健康診断の完全実施と、事後措置を徹底する。健康管理医からの指導助言を受け、教職員一人一人が自己の健康管理をできるようにする。
- ・職員安全衛生委員会で職場環境についての協議を行い、教職員で情報を共有する。また、危険箇所等発見した場合は、早急に対応するよう心掛ける。

イ 新型コロナウイルス感染症対策について

- ・5類移行後も、職員安全衛生委員会で感染症対策について協議し、教職員一人一人の予防への意識を高める。また、地域の感染状況等を参考に感染対策を検討し実施する。

ウ 職場の健康づくり

- ・職場の健康づくり支援事業を活用し、講師を招聘し、身体の調子だけでなく心の調子を整えるためのリラクゼーション方法を学べる健康講座を行う。
- ・職員室に教職員向けの健康目標を掲示し、互いに協力し合いながら働けるようにする。
- ・平日の最終退勤時間の順守。毎週水曜日の定時退勤、夏季休業中の定時退勤、完全閉庁日設定を実施する。

(4) 教職員の研修について【令和4年度】

ア 校内研修

目的・研修内容	成果及び課題
○研修テーマ 「生徒一人一人の働く力を育成する作業学習」 ○研修の重点 ・評価を生かし、学びをつなげる授業実践を行う中で生徒一人一人の意欲や働く力の育成を図る。	・各作業班で事例生徒を設け、単元後の評価を次の単元の課題設定に生かす授業実践を行った。生徒が働く人になるために必要な力を班内で話し合い、課題設定、授業実践、動画による分析、授業改善、評価を実践することができた。また、評価規準枠を設けたツールのより良い使い方について考えていきたい。

イ 教職員の専門性向上

目的・研修内容	成果及び課題
○授業づくり研修 ・一人1授業の実施。  ○自己研修 ・他校研修会の周知や文献資料の回覧を行う。  ○夏季研修 「1学期の事例生徒授業改善表の報告」 ・目標に対する評価 ・評価に対して次単元のつながりについて 「2学期の自主生産作業単元について各班の考えと取組について」	・授業力向上のため、作業学習を窓口授業カードを作成し、授業実践を行っている。生徒の目指す姿に向かうための目標を設定し、その目標達成に向けてより良い支援方法等について考える機会とした。 ・センター主催の研修案内を回覧したり、文献を職員室に設置したりして、教員が自発的に活用できるように働き掛けた。 ・作業学習単元を終えて、各班の事例生徒の目標に対する評価や評価を生かした次の単元の課題設定を聞き、各班の取り組みを理解することができた。 ・次単元の販売会について、生徒たちが目標金額、目標数達成などに向けて、自分で考え、判断し、行動する姿を目指した各班の考えや計画を共有することができた。

【令和5年度】

ア 校内研修

目的・研修内容	成果及び課題
<p>○研修テーマ 「自分事として課題と向き合い、解決していこうとする態度を育成する作業学習」</p> <p>○研修の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の「思考・判断・表現」を大切にした授業実践を行う中で生徒一人ひとりの意欲や働く力の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各作業班で事例生徒を設け、実態把握、試行・判断・表現する姿と具体的な支援について研修シートを使って考え、共有し、授業実践を行った。グループで評価の観点に沿って話し合い、目標や有効な支援について探り、評価し、授業改善することができた。また、事例生徒シートのまとめ方、より良い活用方法について考えていきたい。</li> </ul>

イ 教職員の専門性向上

目的・研修内容	成果及び課題
<p>○授業づくり研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人1授業の実施。</li> </ul> <p>○自己研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他校研修会の周知や文献資料の回覧を行う。</li> </ul> <p>○夏期研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浜松学院大学横山孝子先生の講演「主体的・対話的で深い学び～生徒が自分事として物事を捉えて取り組む授業づくり～」</li> </ul> <p>○事業所見学研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資生堂掛川工場様</li> <li>草笛共同作業所様</li> <li>り～どくさぶえ様</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業力向上のため、一人1授業研究を行った。後期には、参観者は授業者に助言を伝え、授業者は助言を学年、学習グループで共有し、授業改善に活かすことができた。</li> <li>センター主催の研修案内を回覧したり、文献を職員室に設置したりして、教員が自発的に活用できるように働き掛けた。</li> <li>高校生段階として、自立へ向けて学ぶ上でも「自分事として取り組む課題意識」が大切であること、そのために作業学習だけでなく学校生活全般で活動する目的や意味を押さえて自分事にしていく必要性について学ぶことができた。</li> <li>環境要因を整えて充実した学習にしていくと共に、思考・判断・表現している一人ひとりの生徒を見取れるようにしていきたい。</li> <li>企業就労した特別支援学校卒業生の働く様子や仕事内容、職場の環境等を見学し、企業が求める人材、高校生のうちに身につけておきたい力について話を聞き、日々の指導を振り返ることができた。</li> <li>事業所や就労継続支援B型事業所のサービスについて説明を受け、見学することで生徒の実態と照らし合わせながら生徒の将来について考えることができた。</li> </ul>

6 防災対策について

令和4年度は、職員対象に、生徒の安全と安心を守り、適切な避難誘導や防災学習を実施できるよう、コロナ禍ではあったが、できる方法を考えて防災研修を実施した。生徒に対しては、地震が起こった場合、即時に避難行動がとれるようにシェイクアウト訓練を取り入れた

令和5年度は、計画的に防災訓練を行うことで、危機管理意識を高め、防災・防犯訓練をとおして、生徒自身が自分事としてとらえ、自分の命を守ることができるように継続的な指導をしていく。また、危機管理マニュアルについては、県の防災担当職員と連携しながら改善をしていく。

年 度	月 日	内 容
令和4年度	4月5日	第1回危機管理委員会
	4月6日	教職員防災研修（危機管理マニュアルガイダンス）
	4月18日	第1回防災訓練（地震・津波）
	5月10日	通学路安全点検及び生徒捜索対応研修
	5月18日	生徒引き渡し訓練リハーサル
	5月20日	生徒引き渡し訓練（1年生）
	6月17日	不審者対応訓練
	7月29日	職員防災研修（外部講師）
	9月6日	第2回防災訓練（合同）（地震） ← 中止
	9月22日	第2回危機管理委員会（危機管理マニュアル見直し）
	11月22日	ジュニア防災士（外部講師）
	12月1日	第3回防災訓練（原子力）
	12月20日	第4回防災訓練（合同）（火災）
	1月16～20日	災害用伝言ダイヤル訓練（録音訓練）
	3月7日	第3回危機管理委員会 （令和5年度危機管理マニュアルについて）
5月～2月 （毎月1回）	シェイクアウト訓練（地震）	

年 度	月 日	内 容
令和5年度	4月4日	第1回危機管理委員会
	4月5日	教職員防災研修（危機管理マニュアルガイダンス）
	4月17日	第1回防災訓練（地震・津波）
	5月2日	通学路安全点検及び生徒捜索対応研修
	5月18日	生徒引き渡し訓練リハーサル
	5月19日	生徒引き渡し訓練（1年生）
	7月21日	不審者対応訓練
	7月31日	職員防災研修
	9月6日	第2回防災訓練（合同）（地震）
	9月21日	第3回防災訓練（原子力）
	9月25日	第2回危機管理委員会（危機管理マニュアル見直し）
	12月21日	第4回防災訓練（合同）（火災）
	1月15～19日	災害用伝言ダイヤル訓練（録音訓練）
	3月6日	第3回危機管理委員会 （令和6年度危機管理マニュアルについて）
	5月～2月 （毎月1回）	シェイクアウト訓練（地震）

7 学校開放について  
なし

## 事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、 第76条、第77条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律 （第3条） いじめ防止対策推進法（第8条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援学校就学奨励費負担金等及び要保護及準要保護児童生徒 援助費補助金交付要綱



□□□□□

## 学 校 施 設 の 概 要

### 1 面積及び所有区分

#### (1) 本校

(令和5年8月31日現在)

区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳				摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	市町村有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	
学 校 敷 地	22,999.98	22,999.98				
内 訳	校 舎 敷 地	19,408.53	19,408.53			
	運 動 場 敷 地	3,591.45	3,591.45			
	そ の 他 の 敷 地					
校 舎	建 4,195.49	4,195.49				
	延 7,390.34	7,390.34				
体 育 館	建 563.08	563.08				
	延 549.96	549.96				
そ の 他 の 建 物	建 106.02	106.02				
	延 106.02	106.02				
プ ー ル	276	276				大 25m×9.2m 小 9.2m×5m

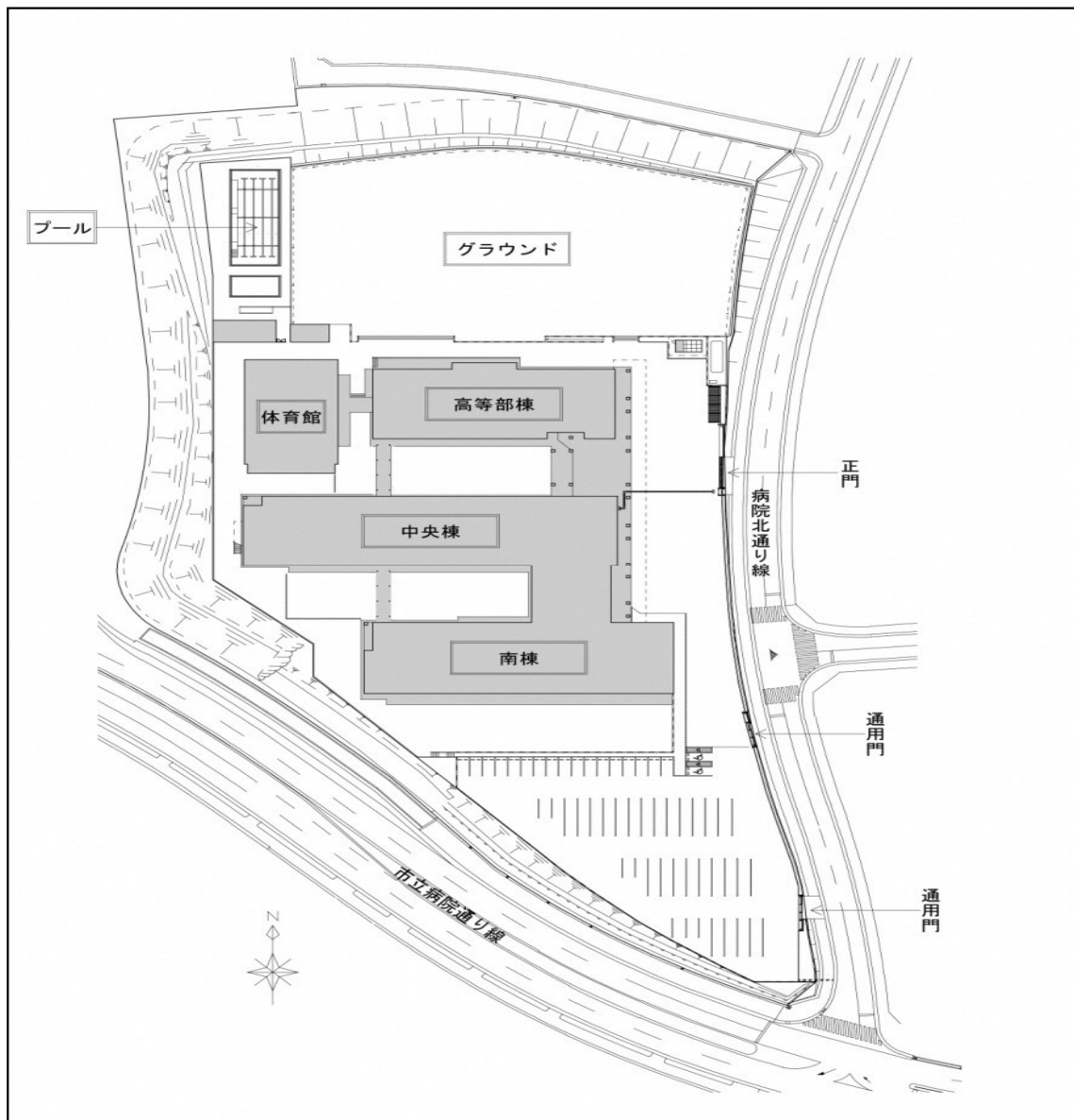
#### (2) 御前崎分校

(令和5年8月31日現在)

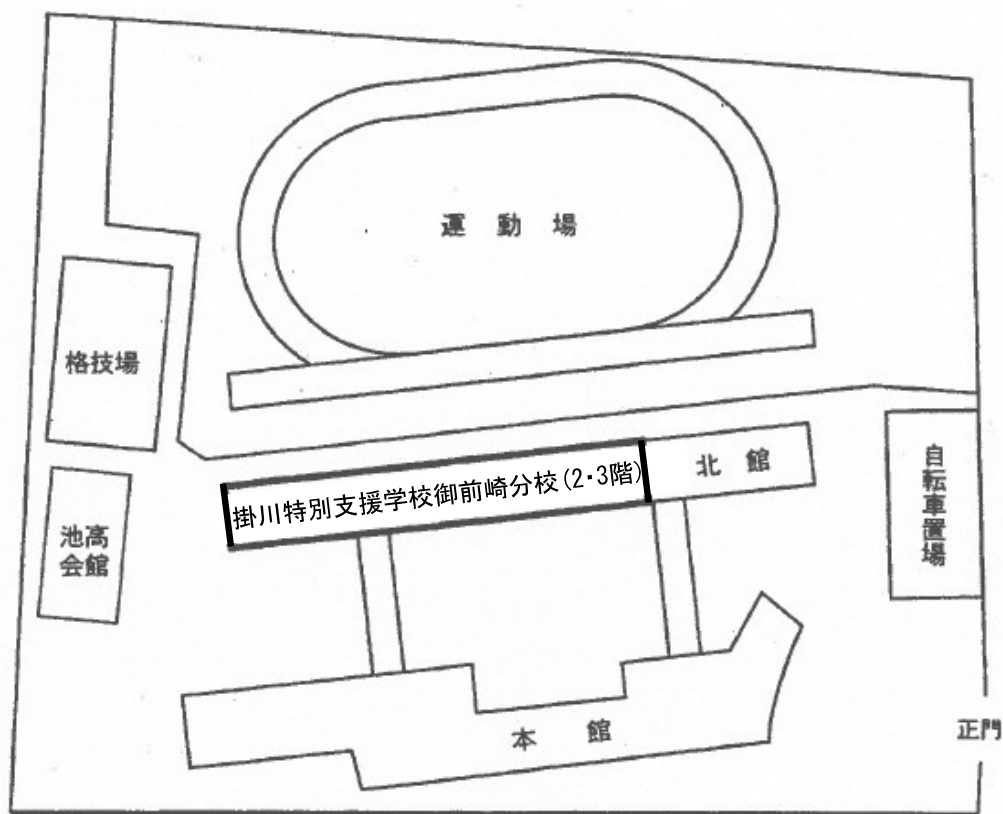
区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳				摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	市町村有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	
校 舎	建 838.69	838.69				池新田高等学校使用承認
	延 838.69	838.69				
そ の 他 の 建 物	建 333.00	333.00				池新田高等学校使用承認
	延 333.00	333.00				

2 配置・規模等  
(1) 校舎の配置図

【本校】



【御前崎分校】



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区 分		学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	本 校	22,999.98㎡	7,390.34㎡	3,591.45㎡
	御前崎分校	0.00㎡	838.69㎡	0.00㎡
県 平 均		18,814.78㎡	6,914.52㎡	5,244.39㎡

在 籍 生 徒 調(本校・分校)

(令和5年8月31日現在)(単位:人)

学年	学科別 区分	小学部 (本校)			中学部 (本校)			高等 (本校)				(本校計)				高等 (御前崎分校)				(合 計)			
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者	15	9	24	29	3	32	24	9	8	17	24	53	20	73	18	8	4	12	42	61	24	85
	増加																						
	減少																						
	現在	15	9	24	29	3	32		9	8	17		53	20	73		8	4	12		61	24	85
2年	入学者	23	5	28	8	7	15	33	19	5	24	33	50	17	67	18	7	5	12	51	57	22	79
	増加																						
	減少								1		1		1		1		1		1		2		2
	2年時当初	23	5	28	8	7	15		18	5	23		49	17	66		6	5	11		55	22	77
	増加																						
	減少	1		1									1		1						1		1
現在	22	5	27	8	7	15		18	5	23		48	17	65		6	5	11		54	22	76	
3年	入学者	17	5	22	19	11	30	33	22	7	29	33	58	23	81	18	13	7	20	51	71	30	101
	増加	1		1	1		1					2		2						2		2	
	減少	1		1								1		1						1		1	
	2年時当初	17	5	22	20	11	31		22	7	29		59	23	82		13	7	20		72	30	102
	増加	1		1	1		1					2		2						2		2	
	減少				2		2						2		2		1	2	3		3	2	5
	3年時当初	18	5	23	19	11	30		22	7	29		59	23	82		12	5	17		71	28	99
	増加																						
減少																							
現在	18	5	23	19	11	30		22	7	29		59	23	82		12	5	17		71	28	99	
4年	入学者	9	4	13									9	4	13						9	4	13
	増加																						
	減少																						
	2年時当初	9	4	13									9	4	13						9	4	13
	増加																						
	減少																						
	3年時当初	9	4	13									9	4	13						9	4	13
	増加																						
	減少				1		1															1	1
	4年時当初	9	5	14									9	5	14						9	5	14
増加																							
減少																							
現在	9	5	14									9	5	14						9	5	14	

□□□□□

在籍生徒調(本校・分校)

(令和5年8月31日現在)(単位:人)

学年	学科別 区分	小学部 (本校)			中学部 (本校)			高等 (本校)			(本校計)			高等 (御前崎分校)			(合計)			
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	
5年	入学者	14	7	21							14	7	21				14	7	21	
	増加																			
	減少																			
	2年時当初	14	7	21							14	7	21				14	7	21	
	増加																			
	減少																			
	3年時当初	14	7	21							14	7	21				14	7	21	
	増加	1		1							1		1				1		1	
	減少																			
	4年時当初	15	7	22							15	7	22				15	7	22	
	増加																			
	減少																			
	5年時当初	15	7	22							15	7	22				15	7	22	
	増加																			
減少																				
現在	15	7	22							15	7	22				15	7	22		
6年	入学者	14	8	22						14	8	22				14	8	22		
	増加																			
	減少																			
	2年時当初	14	8	22						14	8	22				14	8	22		
	増加		1	1							1	1					1	1		
	減少		1	1							1	1					1	1		
	3年時当初	14	8	22						14	8	22				14	8	22		
	増加																			
	減少																			
	4年時当初	14	8	22						14	8	22				14	8	22		
	増加																			
	減少																			
	5年時当初	14	8	22						14	8	22				14	8	22		
	増加																			
減少																				
6年時当初	14	8	22						14	8	22				14	8	22			
増加																				
減少																				
現在	14	8	22						14	8	22				14	8	22			
合計	93	39	132	56	21	77		49	20	69	198	80	278		26	14	40	224	94	318

## 入学志願者及び入学者数調

(本校)

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		33	24	33	33	24
募集者数 (B)		33	24	33	33	24
志願者数	男	12 ( )	15 ( )	22 ( )	19 ( )	9 ( )
	女	10 ( )	7 ( )	7 ( )	5 ( )	9 ( )
	計(C)	22 ( )	22 ( )	29 ( )	24 ( )	18 ( )
受検者数	男	12 ( )	15 ( )	22 ( )	19 ( )	9 ( )
	女	10 ( )	7 ( )	7 ( )	5 ( )	8 ( )
	計(D)	22 ( )	22 ( )	29 ( )	24 ( )	17 ( )
合格者数	男	12 ( )	15 ( )	22 ( )	19 ( )	9 ( )
	女	10 ( )	7 ( )	7 ( )	5 ( )	8 ( )
	計(E)	22 ( )	22 ( )	29 ( )	24 ( )	17 ( )
志願倍率 (C)/(B)		0.67	0.92	0.88	0.73	0.75
受検倍率 (D)/(B)		0.67	0.92	0.88	0.73	0.71
入学者数	男	12	15	22	19	9
	女	10	7	7	5	8
	計 (F)	22	22	29	24	17
充 足 率 (F)/(A)		0.67	0.92	0.88	0.73	0.71

(分校)

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学 科 別		高等部	高等部	高等部	高等部	高等部
生徒定員 (A)		9	9	18	18	18
募集者数 (B)		9	9	18	18	18
志願者数	男	7 ( )	2 ( )	13 ( )	8 ( )	8 ( )
	女	2 ( )	4 ( )	7 ( )	5 ( )	4 ( )
	計(C)	9 ( )	6 ( )	20 ( )	13 ( )	12 ( )
受検者数	男	7 ( )	2 ( )	13 ( )	8 ( )	8 ( )
	女	2 ( )	4 ( )	7 ( )	5 ( )	4 ( )
	計(D)	9 ( )	6 ( )	20 ( )	13 ( )	12 ( )
合格者数	男	7 ( )	2 ( )	13 ( )	8 ( )	8 ( )
	女	2 ( )	4 ( )	7 ( )	5 ( )	4 ( )
	計(E)	9 ( )	6 ( )	20 ( )	13 ( )	12 ( )
志願倍率 (C)/(B)		1.00	0.67	1.11	0.72	0.67
受検倍率 (D)/(B)		1.00	0.67	1.11	0.72	0.67
入学者数	男	7	2	13	7	8
	女	2	4	7	5	4
	計 (F)	9	6	20	12	12
充 足 率 (F)/(A)		1.00	0.67	1.11	0.67	0.67

## 卒業生の動向調

区 分		本 校		御前崎分校		合 計	
		中学部	高等部		高等部		
			本 科	専攻科	本 科		専攻科
高等学校 (本科)	全日制						
	定時制						
	通信制						
特別支援学校高等部		16				16	
その他高等学校等							
大学等	大学(学部)						
	短期大学(本科)						
	大学・短大の通信教育学部等						
	その他大学等						
特別支援学校高等部専攻科							
専修学校(専門課程)							
専修学校(一般課程)・各種学校							
公共職業能力開発施設等							
就 職			8	4		12	
上 記 以 外 ※		1	14	1		16	
不詳・死亡							
計 (卒業者総数)		17	22	5		44	

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		本 校		御前崎分校		合 計	
		中学部	高等部		高等部		
			本 科	専攻科	本 科		専攻科
児童福祉施設							
障害者支援施設			14	1		15	
(うち就労系支援事業利用者)		( )	(8)	(1)	( )	(9)	
医療機関							
計			14	1		15	

## 生徒の状況

## 1 生徒の出身地域及び通学方法

## (1) 出身地

(本校) (令和5年8月31日現在) (単位:人)

市 町 名	掛 川 市	菊 川 市	御前崎市	牧之原市	合 計
児童生徒数	177	72	29		278
構成比%	63.7%	25.9%	10.4%		100%

(御前崎分校)

市 町 名	掛 川 市	菊 川 市	御前崎市	牧之原市	合 計
生徒数	8	8	18	6	40
構成比%	20.0%	20.0%	45.0%	15.0%	100%

## (2) 通学方法

(本校) (令和5年8月31日現在) (単位:人)

区 分	スクールバス	交通機関	自家用車 (送迎)	徒 歩	自 転 車	合 計
児童生徒数	128	24	121		5	278
構成比%	46.1%	8.6%	43.5%		1.8%	100%

(御前崎分校)

区 分	交通機関	自家用車 (送迎)	徒 歩	自 転 車	合 計
生徒数	13	8	5	14	40
構成比%	32.5%	20.0%	12.5%	35.0%	100%

## 2 部(クラブ)の加入状況

(本校) なし

(御前崎分校) (令和5年8月31日現在) (単位:人)

区 分	高 等 部			
	運 動 部	文 化 部	未加入者	計
部(クラブ)数	1	1		2
男子	1年	8		8
	2年	3	3	6
	3年	6	6	12
	計(A)	9	17	26
	構成比	34.6%	65.4%	100.0%
女子	1年	1	3	4
	2年		5	5
	3年		5	5
	計(B)	1	13	14
	構成比	7.1%	92.9%	100.0%
合計	(A)+(B)	10	30	40
	構成比	25.0%	75.0%	100.0%



3 障害別児童生徒数

(本校)

(令和5年8月31日現在) (単位:人)

区 分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計	学 級 数	
小学部	単一障害	12	13	9	8	11	13	66	14
	重複障害	9	8	12	4	10	6	49	16
	肢体重複	3	6	2	2	1	3	17	7
	合計	24	27	23	14	22	22	132	37
中学部	単一障害	19	8	19				46	10
	重複障害	8	3	5				16	6
	肢体重複	5	4	6				15	6
	合計	32	15	30				77	22
高等部	単一障害	12	18	23				53	7
	重複障害	2	3	3				8	3
	肢体重複	3	2	3				8	3
	合計	17	23	29				69	13

(御前崎分校)

区 分	1年	2年	3年	合 計	学 級 数	
高等部	単一障害	12	11	17	40	6
	重複障害					
	肢体重複					
	合計	12	11	17	40	6

4 起因疾患別児童生徒数

(本校)

(令和5年8月31日現在) (単位:人)

区 分	脳 性	染 色 体	自 閉 症 ス ペ ク ト ラ ム	そ の 他 の 知 的 発 達 遅 滞	計
小学部	12	22	67	31	132
中学部	12	11	38	16	77
高等部	9	5	31	24	69
計	33	38	136	71	278

(御前崎分校)

区 分	脳 性	染 色 体	自 閉 症 ス ペ ク ト ラ ム	そ の 他 の 知 的 発 達 遅 滞	計
高等部		4	8	28	40
計		4	8	28	40

□□□□□

特別支援学校における生産物売払調

(令和5年8月31日現在)

(本校)

主な生産品目			
令和5年度	<p>&lt;手芸品・工作物&gt; コースター、ポチ袋、ペンクリップ、ミニハンドバッグ、リングキーホルダー</p> <p>&lt;農作物・園芸品&gt; スイカ、アサガオ、ローズマリー、ヒマワリ</p> <p>&lt;陶芸品&gt; 小鉢、茶碗、ティーカップ、フリーカップ、湯呑、角皿</p>		
	①売払金額	20,150 円	②令和4年度との差額 △797,400 円
令和4年度	<p>&lt;手芸品・工作物&gt; 脱臭剤、コースター、巾着袋、箸置き、コインケース、ペン立て、コード止め、キーホルダー、マウスパット、ストラップ、ペンケース、マグネットクリップ、積み木、お盆、のし袋、傘立て、トートバッグ、ポーチ、エコバッグ、鍋敷き、カレンダー、ティッシュケース、バスケット、トレイ、箸袋セット、カードケース、油ポイっと、干支だるま、クリスマス関連商品、ポチ袋、小物入れ、キーケース、ショルダーバッグ、あずま袋、ストール、ヘアゴム、スマホポーチ、スマホケース、壁掛けキーホルダー、ティッシュボックスカバー、バッグ、ひなだるま、ブックカバー、メッセージカード、メモ帳、ランチョンマット、イヤリング、エコクラッチ、エコトート、バンドトート、キャンドル、タブレットケース、トイレットペーパーボックス、ネックレス、ペンクリップ、エコポーチ、ボンボンバンド、マスクケース、ミニハンドバッグ、ガーラン</p> <p>&lt;農作物・園芸品&gt; かぶ、カモミール、サシェ、サニーレタス、サラダほうれん草、スイスチャード、タッセル、ねぎ、ベビーリーフ、まつばぼたん、水菜、ミニ大根、ミニチンゲン菜、ミニ白菜、野菜苗、ルッコラ、レタス</p> <p>&lt;陶芸品&gt; 平皿、植木鉢、豆皿、小鉢、茶碗、ティーカップ、湯呑、徳利、長皿</p>		
	①売払金額	817,550 円	②令和3年度との差額 40,040 円

令和3年度	<p>&lt;手芸品・工作物&gt;</p> <p>脱臭剤、コースター、巾着袋、箸置き、コード止め、キーホルダー、マウスパット、ペンケース、積み木、お盆、のし袋、手帳入れ、傘立て、トートバッグ、ポーチ、エコバッグ、印鑑マット、鍋敷き、カレンダー、バスケット、籠、トレイ、ブレスレット、アクセサリボックス、油ポイっと、干支だるま、カトラリーケース、クリスマス関連商品、小物入れ、3連キーケース、ショルダーバッグ、あずま袋、ストール、ヘアゴム、スマホケース、壁掛けキーホルダー、ティッシュボックスカバー、財布、ひな人形、トレイテーブル、ボタンゴム、バッグ、羽ストラップ、歯ブラシスタンド、ひなだるま、ブックカバー、フリーカップ、マグカップ、マルチトレイ、めがね立て、メッセージカード、メモ帳、ランチョンマット、リモコンラック、リングキーホルダー</p> <p>&lt;陶芸品&gt;</p> <p>平皿、花瓶、植木鉢、豆皿、小鉢、茶碗、ティーカップ、どんぶり、湯呑</p>		
	①売払金額	857,590 円	②令和2年度との差額

□□□□□

特別支援学校における生産物売払調

(令和5年8月31日現在)

(御前崎分校)

		主な生産品目			
令和5年度	<p>&lt;革工芸品&gt; キーホルダー、コインケース、スマホホルダー、IDホルダー、ペンケース、名刺入れ</p> <p>&lt;手工芸品&gt; かご、リース、ブレスレット</p> <p>&lt;農作物・園芸品&gt; じゃがいも、大根、苗、にんじん、ほうれん草、小松菜、キャベツ、ブロッコリー</p>	① 売払金額	154,600 円	②令和4年度との差額	△198,800 円
	<p>&lt;革工芸品&gt; キーホルダー、コインケース、ブレスレット、ペンケース、スマホホルダー、IDフォルダー、名刺入れ</p> <p>&lt;手工芸品&gt; かご、巾着袋、しおり、ブックカバー、ブレスレット、ペンケース、リース、小物入れ、季節の置物</p> <p>&lt;農作物・園芸品&gt; サニーレタス、じゃがいも、大根、たまねぎ、チンゲン菜、苗、にんじん、ほうれん草、小松菜、さつまいも、キャベツ、ネギ、ブロッコリー</p>	① 売払金額	353,400 円	②令和3年度との差額	223,320 円
令和3年度	<p>&lt;革工芸品&gt; キーホルダー、コインケース、コード止め、小物入れ、動物マグネット、名刺入れ、ネームタグ、パスケース</p> <p>&lt;手工芸品&gt; かご、コースター、しおり、ストラップ、バッグ、ふきん、ブックカバー、ペンケース、リース</p> <p>&lt;農作物・園芸品&gt; 苗、かぶ、キャベツ、きゅうり、小松菜、さといも、さつまいも、ズッキーニ、スナップエンドウ、種、たまねぎ、腐葉土、ぼかし肥料、ほうれん草、水菜、にんじん、ネギ</p>	① 売払金額	130,080 円	②令和2年度との差額	59,530 円

□□□□□

## 預 金 調

(令和5年8月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
静岡銀行掛川支店	無利息型普通預金	944076	静岡県立掛川特別支援学校 資金前渡者 赤澤 智子	0	給料
静岡銀行掛川支店	無利息型普通預金	944054	(自振口) 静岡県立掛川特別支援学校 資金前渡者 赤澤 智子	0	通信・光熱水費 社会保険料
静岡銀行掛川支店	無利息型普通預金	944065	静岡県立掛川特別支援学校 奨励費 代理受領者 赤澤 智子	0	就学奨励費
残 高 合 計				0	

□□□□□

## 郵 券 等 受 払 調

(令和5年8月31日現在)

(本校)

(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和4年度						令和5年度						差引現在高	摘 要	
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			枚数
郵 券	10円券	19	190	0	0	0	0	19	190	0	0	0	0	19	190	文 書 発 送 用
	84円券	18	1,512	200	16,800	196	16,464	22	1,848	200	16,800	61	5,124	161	13,524	
	120円券	23	2,760	0	0	2	240	21	2,520	0	0	0	0	21	2,520	
計		/	4,462	/	16,800	/	16,704	/	4,558	/	16,800	/	5,124	/	16,234	
iTunes カード		/	600	/	0	/	0	/	600	/	0	/	0	/	600	ア プ リ 購 入 用
計		/	600	/	0	/	0	/	600	/	0	/	0	/	600	

□□□□□

## 郵 券 等 受 払 調

(令和5年8月31日現在)

(御前崎分校)

(単位：枚、円)

区 分	種 類	令和4年度						令和5年度						差引現在高	摘 要	
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			枚数
郵 券	84円券	34	2,856	56	4,704	83	6,972	7	588	54	4,536	40	3,360	21	1,764	文 書 発 送 用
計		/	2,856	/	4,704	/	6,972	/	588	/	4,536	/	3,360	/	1,764	

□□□□□

### 材 料 品 受 払 調

(本 校)

(令和5年8月31日現在)

区分 品名	令和4年度						令和5年度						摘要		
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高	
	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)		数量	金額 (円)
牛革タンロー	0	0	259デシ	41,440	259デシ	41,440	0	0	440デシ	70,400	440デシ	70,400	0	0	
牛革ヴァインセント	0	0	123デシ	35,916	123デシ	35,916	0	0	308デシ	39,732	308デシ	39,732	0	0	
赤9号(粘土)	0	0	100kg	18,425	100kg	18,425	0	0	0	0	0	0	0	0	
美濃水ひ(粘土)	0	0	100kg	18,425	100kg	18,425	0	0	0	0	0	0	0	0	
計		0		114,206		114,206		0		110,132		110,132		0	

□□□□□

### 材 料 品 受 払 調

(御前崎分校)

(令和5年8月31日現在)

区分 品名	令和4年度						令和5年度						摘要		
	繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高	
	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)	数量	金額 (円)		数量	金額 (円)
牛革タンロー	0	0	1,730 デシ	276,800	1,730 デシ	276,800	0	0	942デシ	152,648	942デシ	152,648	0	0	
計		0		276,800		276,800		0		152,648		152,648		0	

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和4年度)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和3年度	令和4年度	うち、令和3年度からの繰越額分
(12)委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	/	56,845,932	/
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		13,959,470	
計					70,179,650	70,805,402	0
(14)工事請負費	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	/	2,794,000	/
計					0	2,794,000	0
(16)公有財産購入費					/		/
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	/	539,540	/
計					1,625,910	539,540	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	/	38,500	/
計					61,900	38,500	0
(21)補償、補填及び賠償金					/		/
計					0	0	0



□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年8月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、令和4年度からの繰越額分
(12)委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	19,450,464	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	4,645,441	
計					24,095,905	0
(14)工事請負費						
計					0	0
(16)公有財産購入費						
計					0	0
(17)備品購入費						
計					0	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	38,000	
計					38,000	0
(21)補償、補填及び賠償金						
計					0	0

## 委 託 料 に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
1	給食業務委託	(株)ミカサ	46,329,800	39,547,200	0	39,547,200
2	スクールバス運行管理業務委託	武州総合サービス静岡(株)	11,286,000	9,781,200	0	9,781,200
3	通学バス輸送業務委託	静鉄ジョイス テップバス(株)旅行営業課	119,195,010	112,383,040	0	112,383,040

関 する 調

(令和4年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
一般	2.8.1 ～ 5.7.31	支出済累計額	(21,969,200)	給食調理（配膳）業務 2年度 124回 3年度 192回 4年度 192回 5年度 68回	2長期
		4.5.31	1,098,460		
		4.6.30	1,098,460		
		4.7.29	1,098,460		
		4.8.31	1,098,460		
		4.9.30	1,098,460		
		4.10.31	1,098,460		
		4.11.30	1,098,460		
		4.12.27	1,098,460		
		5.1.31	1,098,460		
		5.2.28	1,098,460		
		5.3.31	1,098,460		
		5.4.25	1,098,460		
	小計	13,181,520			
一般	3.4.1 ～ 6.3.31	支出済累計額	(3,260,400)	スクールバス運行管理 大型バス 1台 運行日数 3年度 202日 4年度 204日 5年度 204日 管理日数 21日	3長期
		4.5.31	271,700		
		4.6.30	271,700		
		4.7.29	271,700		
		4.8.26	271,700		
		4.9.30	271,700		
		4.10.31	271,700		
		4.11.30	271,700		
		4.12.27	271,700		
		5.1.31	271,700		
		5.2.28	271,700		
		5.3.31	271,700		
		5.4.28	271,700		
	小計	3,260,400			
一般	3.4.1 ～ 6.3.31	支出済累計額	(41,032,816)	スクールバス運行 大型バス 3台 運行日数 3年度 202日 4年度 204日 5年度 204日	3長期
		4.5.31	2,972,926		
		4.6.30	2,972,926		
		4.7.29	2,972,926		
		4.8.31	2,972,926		
		4.9.30	2,972,926		
		4.10.31	2,972,926		
		4.11.30	2,972,926		
		4.12.27	2,972,926		
		5.1.31	2,972,926		
		5.2.28	2,972,926		
		5.3.31	2,972,926		
		5.4.25	2,972,926		
	小計	35,675,112			

## 委 託 料 に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
4	エレベーター保守点 検業務委託	三菱電機ビル ソリューションズ (株)中部支社静 岡支店	574,200	574,200	0	574,200
5	産業廃棄物収集運 搬処分委託	サンワ環境整 備(株)	38,500	38,500	0	38,500
6	新型コロナウイルス感 染症対策に伴う通学 バス輸送業務委託	静鉄ジョイス テップバス(株)旅 行営業課	5,873,120	5,873,120	0	5,873,120
7	防鼠防虫業務委託	(株)帝装化成掛 川営業所	79,200	79,200	0	79,200
8	一般廃棄物収集運 搬処分業務委託	松浦梱包輸送 (株)	運搬料 1回 2,200 可燃物処分料 1kg 16.5	運搬料 1回 1,980 可燃物処分料 1kg 16.5	0	運搬料 1回 1,980 可燃物処分料 1kg 16.5
9	産業廃棄物収集運 搬処分委託	サンワ環境整 備(株)	38,500	38,500	0	38,500
10	産業廃棄物(厨房廃 油)収集・運搬及び 処分委託	静和エンパイロ メント(株)	61,600	61,600	0	61,600

関 する 調

(令和4年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
随契	4.4.1 ～ 5.3.31	4.5.31	28,710	昇降機保守点検 寝台用1台 定員11人・積載750kg 遠隔点検診断 随時 法定点検 年1回	随契1号 (少額)
		4.6.30	28,710		
		4.7.29	81,510		
		4.8.31	28,710		
		4.9.30	28,710		
		4.10.31	81,510		
		4.11.30	28,710		
		4.12.27	28,710		
		5.1.31	99,990		
		5.2.28	28,710		
		5.3.31	28,710		
5.4.28	81,510				
	小計	574,200			
随契	4.4.4 ～ 4.11.30	4.6.15	38,500	厨房から排出される不燃物の収集運搬 処分業務 コンテナ(3m <sup>3</sup> )1台	随契1号 (少額)
随契	4.4.8 ～ 4.7.29	4.5.31	1,468,280	スクールバス運行 大型バス 2台 運行日数 71日	随契2号 (不適)
		4.6.30	1,468,280		
		4.7.29	1,468,280		
		4.8.31	1,468,280		
	小計	5,873,120			
随契	4.4.8 ～ 5.3.31	4.10.31	39,600	ネズミ及びゴキブリ等防除業務 巡回点検 月1回 薬剤散布等 年2回	随契1号 (少額)
		5.4.28	39,600		
		小計	79,200		
随契	4.4.13 ～ 5.3.31	4.5.31	27,901	厨房から搬出される一般廃棄物の収 集運搬処分業務 年間 151回	単価契約 随契1号 (少額)
		4.6.30	41,151		
		4.7.29	46,876		
		4.8.31	29,766		
		4.9.30	2,739		
		4.10.31	42,289		
		4.11.30	39,550		
		4.12.27	39,699		
		5.1.31	34,188		
		5.2.28	31,630		
		5.3.31	39,072		
5.4.28	25,789				
	小計	400,650			
随契	4.5.18 ～ 4.11.30	4.9.6	38,500	厨房から排出される不燃物の収集運搬 処分業務 コンテナ(3m <sup>3</sup> )1台	随契1号 (少額)
随契	4.7.1 ～ 4.12.23	4.8.17	61,600	厨房グリストラップの汚泥の清掃、運 搬及び処分 A:400ℓ	随契1号 (少額)

□□□□□

## 委 託 料 に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
11	新型コロナウイルス感染症対策に伴う通学バス輸送業務委託	静鉄ジョイス テップバス(株)旅 行営業課	6,952,000	6,952,000	0	6,952,000
12	産業廃棄物収集運搬処分委託	サンワ環境整備(株)	38,500	38,500	0	38,500
13	産業廃棄物収集運搬処分委託	サンワ環境整備(株)	38,500	38,500	0	38,500
14	産業廃棄物(厨房廃油)収集・運搬及び処分委託	静和エンパイロ メント(株)	61,600	61,600	0	61,600
15	新型コロナウイルス感染症対策に伴う通学バス輸送業務委託	静鉄ジョイス テップバス(株)旅 行営業課	4,431,900	4,431,900	0	4,431,900
16	産業廃棄物収集運搬処分委託	サンワ環境整備(株)	38,500	38,500	0	38,500
17	産業廃棄物(厨房廃油)収集・運搬及び処分委託	静和エンパイロ メント(株)	61,600	61,600	0	61,600
	合 計	17件				

関 する 調

(令和4年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
随契	4.8.29 ～ 4.12.28	4.9.30	1,390,400	スクールバス運行 大型バス 2台 運行日数 80日	随契2号 (不適)
		4.10.31	1,390,400		
		4.11.30	1,390,400		
		4.12.27	1,390,400		
		5.1.31	1,390,400		
	小計	6,952,000			
随契	4.8.3 ～ 5.2.28	4.11.24	38,500	厨房から排出される不燃物の収集運搬 処分業務 コンテナ (3 m <sup>3</sup> ) 1台	随契1号 (少額)
随契	4.10.18 ～ 5.1.25	5.2.9	38,500	厨房から排出される不燃物の収集運搬 処分業務 コンテナ (3 m <sup>3</sup> ) 1台	随契1号 (少額)
随契	4.12.15 ～ 5.1.20	5.2.9	61,600	厨房グリストラップの汚泥の清掃、運 搬及び処分 A : 400ℓ	随契1号 (少額)
随契	5.1.6 ～ 5.3.30	5.2.28	1,477,300	スクールバス運行 大型バス 2台 運行日数 51日	随契2号 (不適)
		5.3.31	1,477,300		
		5.4.25	1,477,300		
		小計	4,431,900		
随契	4.1.12 ～ 5.3.20	5.3.31	38,500	厨房から排出される不燃物の収集運搬 処分業務 コンテナ (3 m <sup>3</sup> ) 1台	随契1号 (少額)
随契	5.2.3 ～ 5.3.22	5.4.5	61,600	厨房グリストラップの汚泥の清掃、運 搬及び処分 A : 400ℓ	随契1号 (少額)
			70,805,402		

□□□□□

委 託 料 に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
参考1	静岡県立掛川西高等学校外7校警備業務委託	総合警備保障(株) 静岡支社		円 8,965,440	円 0	円 8,965,440
参考2	静岡県立掛川工業高等学校外6校自家用電気工作物保安管理業務委託	遠鉄アシスト(株)		2,339,040	0	2,339,040
参考3	静岡県立小笠高等学校外4校浄化槽保守点検業務委託	中遠環境保全(株)		1,772,320	0	1,772,320
参考4	静岡県立掛川西高等学校外3校可燃物収集運搬処分業務委託	中遠環境保全(株)		運搬料1回 1,925 処分料1kg 16.5	0	運搬料1回 1,925 処分料1kg 16.5
参考5	静岡県立掛川東高等学校外7校消防用設備等保守点検業務委託	(株)セキュア		4,620,000	0	4,620,000
参考6	静岡県立池新田高等学校ほか6校水泳プール浄化装置保守点検業務委託	清化工業(株)		327,800	0	327,800
	計	6件				



関 する 調

(令和4年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
	1.10.1 ～ 6.9.30			掛川西高校ほか7校 警報機器による警備業務	掛川西高校
	4.4.1 ～ 5.3.31			掛川工業高校ほか6校 電気工作物に対する保安上の点検業務	掛川工業高校
	4.4.1 ～ 5.3.31			小笠高校ほか4校 浄化槽の保守点検業務	小笠高校
	4.4.8 ～ 5.3.30			掛川西高校ほか3校 可燃物の収集運搬処分業務	掛川西高校
	4.4.1 ～ 5.3.31			掛川東高校ほか7校 消防設備の保守及び機器点検・総合点検業務	掛川東高校
	4.4.6 ～ 4.12.28			池新田高校ほか6校 水泳プール浄化装置保守点検業務	池新田高校

## 委 託 料 に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
1	給食業務委託	(株)ミカサ	46,329,800	39,547,200	0	39,547,200
2	給食業務委託	(株)ミカサ	51,184,672	51,150,000	0	51,150,000
3	スクールバス運行管理業務委託	武州総合サービス静岡(株)	11,286,000	9,781,200	0	9,781,200
4	通学バス輸送業務委託	静鉄ジョイス テップバス(株)旅行営業課	119,195,010	112,383,040	0	112,383,040
5	エレベーター保守点検業務委託	三菱電機ビルソリューションズ (株)中部支社静岡支店	574,200	574,200	0	574,200
6	産業廃棄物収集運搬処分委託	サンワ環境整備(株)	38,500	38,500	0	38,500
7	一般廃棄物収集運搬処分業務委託	松浦梱包輸送(株)	運搬料 1回 2,200 可燃物処分料 1kg 16.5	運搬料 1回 2,090 可燃物処分料 1kg 16.5	0	運搬料 1回 2,090 可燃物処分料 1kg 16.5
8	防鼠防虫業務委託	(株)帝装化成掛川営業所	85,800	85,800	0	85,800
9	産業廃棄物(厨房廃油)収集・運搬及び処分委託	静和エンバイロメント(株)	61,600	61,600	0	61,600
10	新型コロナウイルス感染症対策に伴う通学バス輸送業務委託	(株)平野工業	6,304,320	6,304,320	0	6,304,320
	合計					

関 する 調

(令和5年度)  
(令和5年8月31日現在)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
一般	2.8.1 ～ 5.7.31	支出済累計額	(35,150,720)	給食調理（配膳）業務 2年度 124回 3年度 192回 4年度 192回 5年度 68回	2長期
		5.5.31	1,098,460		
		5.6.30	1,098,460		
		5.7.31	1,098,460		
		5.8.31	1,101,100		
小計	4,396,480				
不随	5.8.1 ～ 8.7.31			給食調理（配膳）業務 5年度 120回 6年度 189回 7年度 190回 8年度 68回	2長期
一般	3.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31	271,700	スクールバス運行管理 大型バス 1台 運行日数 3年度 202日 4年度 204日 5年度 204日 管理日数 21日	3長期
		5.6.30	271,700		
		5.7.31	271,700		
		5.8.31	271,700		
		小計	1,086,800		
一般	3.4.1 ～ 6.3.31	5.5.31	2,972,926	スクールバス運行 大型バス 3台 運行日数 3年度 202日 4年度 204日 5年度 204日	3長期
		5.6.30	2,972,926		
		5.7.31	2,972,926		
		5.8.31	2,972,926		
		小計	11,891,704		
随契	5.4.1 ～ 6.3.31	4.5.31	28,710	昇降機保守点検 寝台用1台 定員11人・積載750kg 遠隔点検診断 随時 法定点検 年1回	随契1号 (少額)
		5.6.30	28,710		
		5.7.31	81,510		
		5.8.31	28,710		
		小計	167,640		
随契	5.4.17 ～ 5.8.31	5.8.31	38,500	厨房から排出される不燃物の収集運搬 処分業務 コンテナ（3㎡）1台	随契1号 (少額)
随契	5.4.10 ～ 6.3.31	5.5.31	27,615	厨房から搬出される一般廃棄物の収 集運搬処分業務 年間 147回	単価契約 随契1号 (少額)
		5.6.30	40,837		
		5.7.31	49,318		
		5.8.31	31,091		
		小計	148,861		
随契	5.4.4 ～ 6.3.31			ネズミ及びゴキブリ等防除業務 巡回点検 月1回 薬剤散布等 年2回	随契1号 (少額)
随契	5.7.11 ～ 5.12.22	5.8.31	61,600	厨房グリストラップの汚泥の清掃、運 搬及び処分 A：4000	随契1号 (少額)
一般	5.4.1 ～ 5.7.31	5.5.31	1,576,080	スクールバス運行 大型バス 2台 運行日数 73日	
		5.6.30	1,576,080		
		5.7.31	1,576,080		
		5.8.31	1,576,080		
		小計	6,304,320		
			24,095,905		

委 託 料 に

整理 番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額		
				当初額	変更 増減額	計
参考1	静岡県立掛川西高等学校外7校警備業務委託	総合警備保障(株) 静岡支社		円 8,965,440	円 0	円 8,965,440
参考2	静岡県立掛川工業高等学校外6校自家用電気工作物保安管理業務委託	遠鉄アシスト(株)		2,550,240	0	2,550,240
参考3	静岡県立小笠高等学校外4校浄化槽保守点検業務委託	中遠環境保全(株)		1,772,320	0	1,772,320
参考4	静岡県立掛川工業高等学校外4校可燃物収集運搬処分業務委託	中遠環境保全(株)		運搬料1回 1,925 処分料1kg 16.5	0	運搬料1回 1,925 処分料1kg 16.5
参考5	静岡県立掛川東高等学校外7校消防用設備等保守点検業務委託	静岡県消防設備保守点検業協同組合		6,017,000	0	6,017,000
参考6	静岡県立横須賀高等学校ほか6校水泳プール浄化装置保守点検業務委託	清化工業(株)		330,000	0	330,000
参考7	掛川菊川地区県立学校建築基準法第12条の基づく定期点検業務委託	福田一級建築士事務所		2,475,000	0	2,475,000
	計	7件				

関 する 調

(令和5年度)  
(令和5年8月31日現在)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
	1.10.1 ～ 6.9.30			掛川西高校ほか7校 警報機器による警備業務	掛川西高校
	5.4.1 ～ 6.3.31			掛川工業高校ほか6校 電気工作物に対する保安上の点検業務	掛川工業高校
	5.4.1 ～ 6.3.31			小笠高校ほか4校 浄化槽の保守点検業務	小笠高校
	5.4.3 ～ 6.3.29			掛川工業高校ほか4校 可燃物の収集運搬処分業務	掛川工業高校
	5.4.1 ～ 6.3.31			掛川東高校ほか7校 消防設備の保守及び機器点検・総合点検業務	掛川東高校
	5.4.3 ～ 5.12.28			横須賀高校ほか6校 水泳プール浄化装置保守点検業務	横須賀高校
	5.9.6 ～ 5.12.15			池新田高校ほか7校 建築基準法に基づく定期点検業務	池新田高校

□□□□□

## 負担金支出調

(令和4年度)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担 金額	支出 年月日
1	掛川地区安全運 転管理協会会費	掛川地区安全運 転管理協会会長	会則第16 条による	安全運転管理者の資 質の向上及び交通安全 の実現に寄与する	円 18,000	4.4.21
2	東海地区特別支 援学校知的障害 教育校長会会費	東海地区特別支 援学校知的障害教 育校長会会長	規約第9 条及び附 則5による	特別支援学校知的障 害教育の振興並びに会 員の研修	5,000	4.7.7
3	全国特別支援学 校知的障害教育 校長会会費	全国特別支援学 校知的障害教育校 長会	会則第15 条による	特別支援教育ならび に知的障害教育の振興 を図る	11,000	4.7.8
4	安全運転管理者 等講習会参加費	静岡県安全運転管 理協会会長	開催通知 による	安全運転管理者の資 質の向上及び交通安全 の実現に寄与する	4,500	4.9.26
計		4件	/	/	38,500	/

□□□□□

## 負担金支出調

(令和5年度)  
(令和5年8月31日)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担 金額	支出 年月日
1	掛川地区安全運 転管理協会会費	掛川地区安全運 転管理協会会長	会則第16 条による	安全運転管理者の資 質の向上及び交通安全 の実現に寄与する	円 18,000	5.4.25
2	全国特別支援学 校知的障害教育 校長会会費	全国特別支援学校 知的障害教育校長 会会長	会則第15 号による	特別支援教育ならび に知的障害教育の振興 を図る	15,000	5.7.3
3	東海地区特別支 援学校知的障害 教育校長会会費	東海地区特別支 援学校知的障害教育 校長会会長	規約第9 条及び附 則5による	特別支援学校知的障 害教育の振興並びに会 員の研修	5,000	5.7.28
計		3件	/	/	38,000	/

## 建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当初設計金額	契 約 金 額		
					当 初 額	変更増減額	計
1	教育管理費	掛川特別支援学校 御前崎分校電話設 備更新工事	御前崎市 池新田地内	1,089,000 円	847,000 円		847,000 円
2	教育管理費	掛川特別支援学校 御前崎分校女子ト イレ改修工事	御前崎市 池新田地内	462,000	462,000		462,000
3	教育管理費	掛川特別支援学校 御前崎分校3階水 道設備設置更新工 事	御前崎市 池新田地内	1,529,000	1,485,000		1,485,000
	合 計		3 件	3,080,000	2,794,000	0	2,794,000

「令和5年度 該当なし」



# 事 調

(令和4年度)

契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産帳台	摘要
随契	電通システム(株)	R4.8.4 ～ R5.3.24	円 847,000	主装置 1式 多機能電話機(停電対応) 1台 多機能電話機 2台 コードレス電話機 1台 単独電話機 3台 配線工事 1式 機器設置 1式 設定及び試験調整 1式	-	令達年月日 R4.7.25 支払年月日 R4.12.2 随契1号 (少額)
随契	(株)増田組	R4.12.5 ～ R5.3.24	462,000	・トイレブース撤去・復旧 ・長尺シート張り	-	令達年月日 R4.11.22 支払年月日 R5.3.3 随契1号 (少額)
随契	(株)河原崎配管	R5.1.11 ～ R5.3.28	1,485,000	・外壁コア抜き ・3階学習室給水配管設置更新 ・学習室C流し台新設に伴う排水配管設置	-	令達年月日 R4.12.20 支払年月日 R5.4.21 随契1号 (少額)
			2,794,000			

□□□□□

## 公 有 財 産 調 査

(令和4年度)

(本校)

区 分	令 和 4 年 3 月 31 日 現 在		増		減		令 和 5 年 3 月 31 日 現 在		摘 要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産	千円	2,530,889	千円	390	千円	89,607	千円	2,441,672	
土地	m <sup>2</sup>	22,999.98	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>	22,999.98	708,399
立木竹	本		本		本		本		0
建 物	m <sup>2</sup>	1,477,647	m <sup>2</sup>		m <sup>2</sup>	57,708	m <sup>2</sup>	1,419,939	
工作物	個	344,740	個	390	個	31,899	個	313,231	
樹木	本	103	本		本		本	103	
公有財産に 準ずるもの		30		0		0		30	
電 話 加入権	件	30	件		件		件	30	

(令和5年度中増減なし)

(令和4年度)

(御前崎分校)

区 分	令 和 4 年 3 月 31 日 現 在		増		減		令 和 5 年 3 月 31 日 現 在		摘 要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産	千円	15,427	千円	0	千円	1,140	千円	14,287	
工作物	個	15,427	個		個	1,140	個	14,287	
公有財産に 準ずるもの		150		0				150	
電 話 加入権	件	150					件	150	

(令和5年度中増減なし)

□□□□□

## 借 地 借 家 等 調

(令和5年8月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は 面積	借 料		契約期間	所 有 者 又 は 契約者氏名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	掛川市 杉谷南一丁目1-25	市道 病院北通り 線		m <sup>2</sup> 17.20	—	—	R4. 1.14 ～ R6. 3.31	掛川市長	花壇設置
	土地計					m <sup>2</sup> 17.20	—	—			
1	建物	事務 所建	御前崎市 池新田2907-1	鉄筋コンク リート造 4階建		m <sup>2</sup> <u>816.22</u> 816.22	—	—	R3. 4. 1 ～ R6. 3.31	池新田高等 学校長	校舎
2	建物	事務 所建	御前崎市 池新田2907-1	鉄筋コンク リート造 4階建		m <sup>2</sup> <u>22.47</u> 22.47	—	—	R3. 4. 1 ～ R6. 3.31	池新田高等 学校長	昇降口
3	建物	雑屋 建	御前崎市 池新田2907-1	鉄骨造 平屋建		m <sup>2</sup> <u>333.00</u> 333.00	—	—	R3. 4. 1 ～ R6. 3.31	池新田高等 学校長	作業場
	建物計					m <sup>2</sup> <u>1171.69</u> 1171.69	—	—			

□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和5年度)

(令和5年8月31日現在)

区 分	事業名又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)			
				2年度	3年度	4年度	5年度
長期継続 契 約	カラー印刷機 賃貸借	カラー印刷機 1台の賃貸借 (契約日) R2.4.1	3,907,200	円 976,800	円 976,800	円 976,800	円 976,800
	給食業務委託	給食の調理配膳 業務委託 (契約日) R2.8.1	39,547,200	8,787,680	13,181,520	13,181,520	4,396,480
	スクールバス 運行管理業務 委託	スクールバス 1台の運行管理 業務委託 (契約日) R3.4.1	9,781,200		3,260,400	3,260,400	3,260,400
	通学バス輸送 業務委託	通学バス3台の 輸送業務委託 (契約日) R3.4.1	112,383,040		41,032,816	35,675,112	35,675,112

区 分	事業名又は 契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)			
				5年度	6年度	7年度	8年度
長期継続 契 約	給食業務委託	給食の調理配膳 業務委託 (契約日) R5.7.26	51,150,000	円 11,366,080	円 17,049,120	円 17,049,120	円 5,685,680

□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和5年8月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量 又は 面積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	掛川市杉谷南1丁目1番2号	学校敷地	学校敷地	本柱6本 支線3条 支柱2本	円 1,500	円 16,500	R3. 4. 1 ～ R8. 3.31	中部電力 パワー グリッド(株) 掛川営業所	電力供給
2	土地	学校敷地	掛川市杉谷南1丁目1番2号	学校敷地	学校敷地	支線3条 支柱1本	1,500	6,000	R3. 4. 1 ～ R8. 3.31	NTT西日本(株) 静岡支店	電気通信
3	土地	学校敷地	掛川市杉谷南1丁目1番2号	学校敷地	学校敷地	m <sup>2</sup> 184.96	—	免除	R5. 4. 1 ～ R6. 3.31	掛川市長	植栽地
4	土地	学校敷地	掛川市杉谷南1丁目1番2号	学校敷地	学校敷地	m <sup>2</sup> 16.16	—	免除	H31. 4. 1 ～ R6. 3.31	掛川市長	防災 資機材 保管庫
5	建物	事務所建	掛川市杉谷南1丁目1番2号	事務所建	事務所建	m <sup>2</sup> 0.62	—	免除	R3. 3. 1 ～ R8. 3.31	掛川市長	防災 無線 設置
合 計								22,500			

□□□□□

## 主要備品調

(令和5年8月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	02-01	パーソナルコンピュータ (一式)	パーソナルコンピュータ (一式)	パソコン教室授業用 週15h使用	H27.9	2,656,800
2	01-13	その他の厨房器具	真空冷却機 755*800*1740	給食調理用 年間190日	H27.2	2,085,480
3	01-13	食品食器洗浄機	ラックコンベヤタイプ 自動食器洗 1180*750*1340	給食調理用 年間190日	H27.2	1,959,120
4	01-13	調理器具	コンビオーブン 920*773*1700	給食調理用 年間190日	H27.2	1,794,960
5	06-09	その他の木工用機器	横切り盤 PW-1300A-H	作業学習授業用 週10h使用	H27.3	1,420,200
6	03-03	プロジェクター	プロジェクター MC-BW302J	教室授業用 週10h使用	R3.3	1,402,711
7	01-13	冷蔵 (凍) 庫	パススルー冷蔵庫 1200*850*1950	給食調理用 年間190日	H27.2	1,399,680
8	10-08	その他の芸術用器具	電気横扉式陶芸窯 (還元バーナー) KRR-20B	作業学習授業用 週10h使用	H27.3	1,360,800
9	01-14	エアコンディショナー	空冷ヒートポンプエアコン PLZX-ERP224EM	会議室用 週20h使用	H29.8	1,350,000
10	02-01	パーソナルコンピュータ (一式)	パーソナルコンピュータ (一式)	御前崎分校授業用 週10h使用	H26.2	1,155,000
11	01-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管機 1750*950*1860	給食調理用 年間190日	H27.2	1,077,840
12	01-13	冷蔵 (凍) 庫	冷凍冷蔵庫 1500*650*1950	給食調理用 年間190日	H27.2	839,160
13	10-99	その他の教育用器具	スイングサポートフレーム 大型	粗大運動授業用 年間80日	R2.9	800,000
14	02-02	放送装置	放送装置 デジタルミキサー	体育授業用 週20h使用	H28.2	768,960
15	01-14	エアコンディショナー	エアコン SSRA50BCT	印刷室用 週20h使用	R1.6	739,800
16	03-03	プロジェクター	プロジェクター MC-BW302J	御前崎分校教室授業用 週10h使用	R3.3	712,191
17	01-14	エアコンディショナー	エアコン PCZ-ERMP112KM	図書室用 週10h使用	H29.6	702,000
18	06-09	木工用機械	木工用機械 2034型	作業学習授業用 週10h使用	R3.11	679,800
19	01-13	調理器具	ガス式立体炊飯器 (低輻射仕様) 830*720*1680	給食調理用 年間190日	H27.2	590,760
20	01-13	調理器具	ガス式立体炊飯器 (低輻射仕様) 830*720*1680	給食調理用 年間190日	H27.2	590,760

□□□□

## 職 員 調 (本校)

(令和5年8月31日 現在)

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校 長	赤 澤 智 子	総括	□□□	□年 □月	□□□□□
2	副 校 長	滝 口 晃 央	総括補助	□□□	□年 □月	□□□□□
3	教 頭	白 柳 沙 代	総括補助	□□□	□年 □月	□□□□□
4	事 務 長	前 田 雅 人	事務総括	□□□	□年 □月	□□□□□
5	教 諭	土 屋 謙 次 郎	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
6	教 諭	山 田 由 美 子	高1	□□□	□年 □月	□□□□□
7	教 諭	平 岡 常 一	小6	□□□	□年 □月	□□□□□
8	教 諭	藤 田 一 世	高級外	□□□	□年 □月	□□□□□
9	教 諭	山 下 光 司	高級外	□□□	□年 □月	□□□□□
10	教 諭	塚 本 陽 子	小1主任	□□□	□年 □月	□□□□□
11	教 諭	小 島 秀 子	小級外	□□□	□年 □月	□□□□□
12	教 諭	多 田 三 千 代	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
13	教 諭	矢 山 賢 一	中2	□□□	□年 □月	□□□□□
14	教 諭	田 村 進	中2主任	□□□	□年 □月	□□□□□
15	教 諭	近 藤 真 理 子	中学部副主事 保健主事	□□□	□年 □月	□□□□□
16	教 諭	花 村 理 恵 子	小6	□□□	□年 □月	□□□□□
17	教 諭	福 代 美 也 乃	小2主任	□□□	□年 □月	□□□□□
18	教 諭	小 山 裕 子	高1主任	□□□	□年 □月	□□□□□
19	教 諭	大 石 京 子	中級外 自立活動主任	□□□	□年 □月	□□□□□
20	教 諭	河 村 智 可	肢体副主任 小1	□□□	□年 □月	□□□□□
21	教 諭	鈴 木 倫 美	小6	□□□	□年 □月	□□□□□
22	教 諭	植 田 淳 子	小6主任	□□□	□年 □月	□□□□□
23	教 諭	梅 原 隆 史	小学部主事	□□□	□年 □月	□□□□□
24	教 諭	福 井 研 二	中級外	□□□	□年 □月	□□□□□
25	教 諭	倉 知 由 利	高3主任	□□□	□年 □月	□□□□□
26	教 諭	土 屋 利 男	高級外	□□□	□年 □月	□□□□□
27	教 諭	久 米 俊 二	小3	□□□	□年 □月	□□□□□
28	教 諭	鈴 木 陽 子	小学部副主事	□□□	□年 □月	□□□□□
29	教 諭	袴 田 由 美 子	中学部主事	□□□	□年 □月	□□□□□
30	教 諭	大 石 香 織	中3主任	□□□	□年 □月	□□□□□
31	教 諭	山 本 和 枝	高等部主事	□□□	□年 □月	□□□□□
32	教 諭	大 石 安 規 子	小5	□□□	□年 □月	□□□□□
33	教 諭	鈴 木 憩 子	小6	□□□	□年 □月	□□□□□
34	教 諭	平 野 あ ゆ み	高級外 教務主任	□□□	□年 □月	□□□□□
35	教 諭	伊 藤 と も こ	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
36	教 諭	鈴 木 美 香	中1主任	□□□	□年 □月	□□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
37	教 諭	鈴木 勝晃	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
38	教 諭	大石 真理子	小級外	□□□	□年 □月	□□□□□
39	教 諭	浦井 明美	小5	□□□	□年 □月	□□□□□
40	教 諭	村松 まり子	小4	□□□	□年 □月	□□□□□
41	教 諭	小澤 千穂	小級外	□□□	□年 □月	□□□□□
42	教 諭	伊東 郁乃	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
43	教 諭	内藤 有希子	小3	□□□	□年 □月	□□□□□
44	教 諭	松浦 正人	小3主任	□□□	□年 □月	□□□□□
45	教 諭	松井 健	高等部副主事 進路指導主事	□□□	□年 □月	□□□□□
46	教 諭	濱本 沙織	小5	□□□	□年 □月	□□□□□
47	教 諭	鈴木 ちはる	小3	□□□	□年 □月	□□□□□
48	教 諭	佐藤 綾子	肢体主任	□□□	□年 □月	□□□□□
49	教 諭	名倉 彩	中肢体主任	□□□	□年 □月	□□□□□
50	教 諭	秋山 彩佳	小肢体主任	□□□	□年 □月	□□□□□
51	教 諭	鈴木 隆之	高2主任	□□□	□年 □月	□□□□□
52	教 諭	竹内 由香	小6	□□□	□年 □月	□□□□□
53	教 諭	鯉江 遼香	高2	□□□	□年 □月	□□□□□
54	教 諭	酒井 敬子	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
55	教 諭	尾崎 幸子	小5主任	□□□	□年 □月	□□□□□
56	教 諭	竹村 真衣子	小5	□□□	□年 □月	□□□□□
57	教 諭	樋口 衡子	小4主任	□□□	□年 □月	□□□□□
58	教 諭	松村 慎子	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
59	教 諭	加藤 有紀	小1	□□□	□年 □月	□□□□□
60	教 諭	杉浦 正樹	高1	□□□	□年 □月	□□□□□
61	教 諭	横山 悦子	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
62	教 諭	小木 友樹	小5	□□□	□年 □月	□□□□□
63	教 諭	山田 崇滋	中1	□□□	□年 □月	□□□□□
64	教 諭	鈴木 真希	小1	□□□	□年 □月	□□□□□
65	教 諭	鈴木 愛巳	高肢体主任	□□□	□年 □月	□□□□□
66	教 諭	藪下 正治	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
67	教 諭	内藤 嘉恵	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
68	教 諭	須原 拓実	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
69	教 諭	相津 詠美	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
70	教 諭	山本 紗也加	小1 研修主任	□□□	□年 □月	□□□□□
71	教 諭	堂地 鉄平	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
72	教 諭	西川 依里	中2	□□□	□年 □月	□□□□□
73	教 諭	櫻井 貴彦	高2	□□□	□年 □月	□□□□□



整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
74	教 諭	内 藤 元 美	高1	□□□	□年 □月	□□□□□
75	教 諭	平 松 寛 哲	中1	□□□	□年 □月	□□□□□
76	教 諭	秋 山 武 史	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
77	教 諭	石 塚 真 野	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
78	教 諭	横 山 初 穂	中2	□□□	□年 □月	□□□□□
79	教 諭	大 塚 敦 子	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
80	教 諭	飯 田 実 来	中1	□□□	□年 □月	□□□□□
81	教 諭	寺 田 宗 樹	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
82	教 諭	長谷川 亜夜子	中1	□□□	□年 □月	□□□□□
83	教 諭	青 山 咲 希	高2	□□□	□年 □月	□□□□□
84	教 諭	鈴 木 雪 乃	小6	□□□	□年 □月	□□□□□
85	教 諭	川 前 修 一	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
86	教 諭	松 田 信 一	中2	□□□	□年 □月	□□□□□
87	教 諭	胡 摩 尚 志	高2	□□□	□年 □月	□□□□□
88	教 諭	仲 田 勝 哉	小5	□□□	□年 □月	□□□□□
89	教 諭	中 辻 由 加 里	小1	□□□	□年 □月	□□□□□
90	教 諭	枝 村 舞 子	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
91	教 諭	河 合 瞭 平	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
92	教 諭	寺 田 理 紗	高級外	□□□	□年 □月	□□□□□
93	教 諭	河 村 好 美	高2	□□□	□年 □月	□□□□□
94	教 諭	岡 村 幸 大	小6	□□□	□年 □月	□□□□□
95	教 諭	大 石 憲 太 郎	高2 生徒指導主事	□□□	□年 □月	□□□□□
96	教 諭	南 條 杏 奈	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
97	教 諭	青 木 茜	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
98	教 諭	迫 本 理 絵	高1	□□□	□年 □月	□□□□□
99	教 諭	秋 山 恵 里	小4	□□□	□年 □月	□□□□□
100	教 諭	西 川 瑞 萌	小1	□□□	□年 □月	□□□□□
101	教 諭	藤 田 凌 平	小1	□□□	□年 □月	□□□□□
102	教 諭	櫻 井 詩 織	小4	□□□	□年 □月	□□□□□
103	教 諭	永 田 万 菜 実	小3	□□□	□年 □月	□□□□□
104	教 諭	増 田 美 希	小1	□□□	□年 □月	□□□□□
105	教 諭	鈴 木 萌 香	中2	□□□	□年 □月	□□□□□
106	教 諭	大 野 寛 斗	高1	□□□	□年 □月	□□□□□
107	教 諭	柴 田 健 博	小3	□□□	□年 □月	□□□□□
108	教 諭	澤 田 穂 高	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
109	教 諭	菅 島 在 一	高2	□□□	□年 □月	□□□□□
110	教 諭	高 宮 裕 貴	中1	□□□	□年 □月	□□□□□

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
111	教 諭	土 田 晃 平	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
112	教 諭	土 屋 龍 二	小3	□□□	□年 □月	□□□□□
113	教 諭	福 井 康 太	小1	□□□	□年 □月	□□□□□
114	教 諭	南 亜 子	中1	□□□	□年 □月	□□□□□
115	教 諭	杉 村 実 希	小4	□□□	□年 □月	□□□□□
116	教 諭	斎 藤 麻 由	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
117	教 諭 ( 任 )	尾 崎 浩 子	中3	□□□	□年 □月	□□□□□
118	教 諭 ( 任 )	布 澤 美 由 紀	中2	□□□	□年 □月	□□□□□
119	教 諭 ( 任 )	高 桑 道 代	小1	□□□	□年 □月	□□□□□
120	教 諭 ( 任 )	平 口 亜 衣	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
121	教 諭 ( 任 )	村 松 はる香	小2	□□□	□年 □月	□□□□□
122	養 護 教 諭	平 田 奈 保	養護	□□□	□年 □月	□□□□□
123	養 護 教 諭	戸 田 陽 奈	養護	□□□	□年 □月	□□□□□
124	栄 養 教 諭	大 塚 美 和 子	給食	□□□	□年 □月	□□□□□
125	主 査	石 神 秀 子	庶務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□
126	主 査	磯 部 望	会計・管財	□□□	□年 □月	□□□□□
127	主 査	岡 本 優 子	庶務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□
128	技 能 長	塩 澤 太 佳 夫	用務	□□□	□年 □月	□□□□□
平均年数					2年 8月	

## 付 記

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(臨)	佐藤 美智代	小5	□□□	□年 □月	□□□□□
2	教諭(臨)	堀内 泰子	高2	□□□	□年 □月	□□□□□
3	教諭(臨)	塩田 真由美	小6	□□□	□年 □月	□□□□□
4	教諭(臨)	田村 尚志	小4	□□□	□年 □月	□□□□□
5	教諭(臨)	孕石 雅仁	中2	□□□	□年 □月	□□□□□
6	教諭(臨)	石谷 和	中1	□□□	□年 □月	□□□□□
7	教諭(臨)	鈴木 朋子	小3	□□□	□年 □月	□□□□□
8	教諭(臨)	増田 将太	中1	□□□	□年 □月	□□□□□
9	教諭(臨)	鈴木 順子	小3	□□□	□年 □月	□□□□□
10	教諭(臨)	杉本 秀平	中1	□□□	□年 □月	□□□□□
11	教諭(臨)	杉村 航平	中1	□□□	□年 □月	□□□□□
12	教諭(臨)	秋山 隆之助	高級外	□□□	□年 □月	□□□□□
13	教諭(臨)	阪本 寛	小6	□□□	□年 □月	□□□□□
14	非常勤講師	永田 政司	社会人活用(革工芸)	□□□	□年 □月	□□□□□
15	スクールカウンセラー	高木 紀子		□□□	□年 □月	□□□□□
16	医療的ケア 看護職員	鈴木 梢		□□□	□年 □月	□□□□□
17	医療的ケア 看護職員	酒井 記子		□□□	□年 □月	□□□□□
18	医療的ケア 看護職員	落合 智子		□□□	□年 □月	□□□□□
19	医療的ケア 看護職員	大庭 洋子		□□□	□年 □月	□□□□□
20	医療的ケア 看護職員	矢田 博美		□□□	□年 □月	□□□□□
21	実習支援 指導員	水口 浩孝		□□□	□年 □月	□□□□□
22	就労促進 専門員	酒井 美奈子		□□□	□年 □月	□□□□□
23	非常勤 職員	藤井 夏見	校内介助	□□□	□年 □月	□□□□□
24	非常勤 職員	岡本 直子	校内介助	□□□	□年 □月	□□□□□
25	非常勤 職員	伊藤 義典	スクールバス介助	□□□	□年 □月	□□□□□
26	非常勤 職員	鶴田 久子	スクールバス介助	□□□	□年 □月	□□□□□
27	非常勤 職員	前原 龍子	スクールバス介助	□□□	□年 □月	□□□□□
28	非常勤 職員	杉山 けい子	スクールバス介助 新型コロナ対策業務	□□□	□年 □月	□□□□□
29	非常勤 職員	黒田 文子	スクールバス介助 新型コロナ対策業務	□□□	□年 □月	□□□□□
30	非常勤 職員	三宅 早苗	スクールバス介助	□□□	□年 □月	□□□□□
31	非常勤 職員	土屋 由美子	スクールバス介助	□□□	□年 □月	□□□□□
32	非常勤 職員	戸塚 仁美	スクールバス介助	□□□	□年 □月	□□□□□
33	非常勤 職員	増田 幸子	スクールバス介助	□□□	□年 □月	□□□□□
34	非常勤 職員	高木 久美子	スクールバス介助 新型コロナ対策業務	□□□	□年 □月	□□□□□
35	非常勤 職員	落合 満江	新型コロナ対策業務	□□□	□年 □月	□□□□□
36	非常勤 職員	鈴木 信雄	新型コロナ対策業務	□□□	□年 □月	□□□□□
37	非常勤 職員	西川 春代	新型コロナ対策業務	□□□	□年 □月	□□□□□
38	非常勤 職員	石引 美枝子	新型コロナ対策業務	□□□	□年 □月	□□□□□
39	非常 嘱託 職員	赤堀 あゆみ	介助軽減	□□□	□年 □月	□□□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
40	校医(内科) 健康管理医	中 島 洋		□□□	□年 □月	□□□□□
41	校 医 ( 耳 鼻 科 )	小 野 智 裕		□□□	□年 □月	□□□□□
42	校 医 ( 眼 科 )	德 富 真 理 子		□□□	□年 □月	□□□□□
43	校 医 ( 歯 科 )	岡 本 正 志		□□□	□年 □月	□□□□□
44	校 医 ( 精 神 科 )	高 松 康 治		□□□	□年 □月	□□□□□
45	学校薬剤師	名 倉 尚 宏		□□□	□年 □月	□□□□□

□□□□

## 職 員 調 (御前崎分校)

(令和5年8月31日 現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教 頭	鈴木 淳也	総括補助	□□□	□年 □月	□□□□□
2	教 諭	丹羽 美奈子	高等部主事	□□□	□年 □月	□□□□□
3	教 諭	宮 津 香 織	高級外 進路指導主事	□□□	□年 □月	□□□□□
4	教 諭	小 倉 寛 子	高級外 教務主任	□□□	□年 □月	□□□□□
5	教 諭	松 田 宏 美	高1	□□□	□年 □月	□□□□□
6	教 諭	丸 山 恵 未	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
7	教 諭	小 川 悟	高2主任	□□□	□年 □月	□□□□□
8	教 諭	奈 木 昌 登	高3主任	□□□	□年 □月	□□□□□
9	教 諭	山 崎 孟	高3 生徒指導主事	□□□	□年 □月	□□□□□
10	教 諭	木 村 悟	高1主任	□□□	□年 □月	□□□□□
11	教 諭	村 松 舞 子	高1 研修主任	□□□	□年 □月	□□□□□
12	教 諭	竹 田 真 也	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
13	教 諭	西 田 行 宏	高1	□□□	□年 □月	□□□□□
14	教 諭	小 平 優 希	高1	□□□	□年 □月	□□□□□
15	教 諭	武 藤 圭 亮	高2	□□□	□年 □月	□□□□□
16	教諭(任)	平 田 知 子	高3	□□□	□年 □月	□□□□□
17	養護教諭	野 村 操	養護	□□□	□年 □月	□□□□□
平均年数					2年 4月	

## 付 記

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(臨)	松 下 一 實	高2	□□□	□年 □月	□□□□□
2	主事(臨)	提 坂 瑠 美	庶務・会計	□□□	□年 □月	□□□□□
3	非常勤講師	永 田 政 司	社会人活用 (革工芸)	□□□	□年 □月	□□□□□
4	非常勤労務職員	落 合 千 壽 子	用務	□□□	□年 □月	□□□□□
5	校 医 (内 科)	川 口 智 史		□□□	□年 □月	□□□□□
6	校 医 (耳 鼻 科)	小 野 智 裕		□□□	□年 □月	□□□□□
7	校 医 (眼 科)	徳 富 真 理 子		□□□	□年 □月	□□□□□
8	校 医 (歯 科)	岡 本 正 志		□□□	□年 □月	□□□□□
9	校 医 (歯 科)	鈴 木 勝 巳		□□□	□年 □月	□□□□□
10	校 医 (歯 科)	牧 野 尚 子		□□□	□年 □月	□□□□□
11	学校薬剤師	櫻 田 静 勝		□□□	□年 □月	□□□□□
12	健康管理医	阿 部 裕 和		□□□	□年 □月	□□□□□

□□□□□

## 職員の年齢調

(令和5年8月31日現在)

年 齢	人 員			摘 要
	本 校	御 前 崎 校 分 校	合 計	
20歳未満	人	人	人	
20歳以上30歳未満	27	2	29	
30歳以上40歳未満	41	3	44	
40歳以上50歳未満	28	8	36	
50歳以上56歳未満	21	4	25	
56歳以上61歳未満	10	0	10	
61歳以上	1	0	1	内再任用1人
計	128	17	145	平均年齢 本校 40歳6か月 分校 41歳3か月

□□□□□

## 健康管理

### 1 令和4年度受診状況

区 分	内 容			
受 診 状 況		本校	分校	合計
	受診者数	129	17人	146
	職員数	129	17人	146
受 診 率	100%			
県平均受診率	100%			

(1) 未受診の理由

### 2 令和5年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分		人 数			
		本校	分校	合計	
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。				
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療			
B 2		要経過観察			
C 1	勤務をほぼ平常に行っていたが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	(1) 1人	(1) 1人	
C 2		要経過観察			
D 1	平常の勤務でよい。	要治療	(15) 15人	(6) 6人	(21) 21人
D 2		要経過観察	(29) 29人	(6) 6人	(35) 35人
D 3		医療不要	(55) 75人	(2) 5人	(57) 80人
区 分 者 計			(100) 120人	(14) 17人	(114) 137人
未区分者数			8人	人	8人
合 計			(100) 128人	(14) 17人	(114) 145人

(1) 管理区分A～C 2該当者に対する措置状況  
□□□□□

(2) 未区分の理由  
 ア □□□□□  
     1人  
 イ □□□□□  
     7人  
 ウ □□□□□  
     0人  
 エ □□□□□  
     0人